

ANNUAL Report

年報 2016



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university





総合情報メディアセンターからの メッセージ

総合情報メディアセンター長
高橋 寛

総合情報メディアセンター（CITE：Center for Information Technology, Ehime university）のセンター長を務めております 高橋 寛です。今年も年報をお届けします。平成15年4月に発足した本センターは、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの幅広い活動を通じて、愛媛大学の情報基盤を支えています。

平成23年4月からは先端研究・学術推進機構に所属するようになり、学生教育や研究活動をはじめとする教職員の円滑な業務遂行のために、情報基盤の改善、維持に携わっています。センター発足から10年あまりが過ぎましたので、昨年度から、総合情報メディアセンター在り方検討ワーキンググループを設置し、今年度も継続的に検討を行っております。

平成26年9月から稼働した情報基盤システムが安定した愛媛大学の情報環境を提供しております。また、新しいサービスとして提供を開始したクラウドメール（Office365）、ホスティングサービス及びUPKI電子証明書発行サービスの利用も順調に全学に浸透しております。

平成25年度に設置された教育デザイン室では、eラーニングを核とした新しい教育スタイルの普及に向け、積極的に取り組んでいます。最近、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業及び大学間連携共同教育推進事業により支援を受けているeラーニングに関する先進的取組を推進しています。この組織を中心に、eラーニングコンテンツの作成やその普及のための取組を行っています。

平成28年度には、愛媛大学において、最高情報セキュリティ責任者（CISO）のもとに情報セキュリティ委員会及び愛媛大学コンピュータセキュリティインシデント対策チーム（EU-CSIRT）が設置されました。また、情報セキュリティ対策基本計画と工程表（平成28年度～30年度）が策定されました。総合情報メディアセンターは、EU-CSIRTの運営や情報セキュリティ対策基本計画の実施に対して、積極的に貢献していくことを考えています。

総合情報メディアセンターが行っているこれら様々な取り組みについて、皆さま方の温かいご支援とご理解をよろしくお願い申し上げます。

センター長あいさつ

1. 部門概要・業績	1
(1) 部門教職員.....	1
(2) 部門概要.....	2
(3) 教員活動実績.....	10
2. 教育研究実績	16
(1) 研究活動.....	16
(2) 学会発表等.....	28
3. 教育活動及び教育支援	29
(1) 教育活動.....	29
(2) 教育支援.....	32
4. 研究活動	33
(1) 研究成果.....	33
5. 業務関連	39
(1) 沿革.....	39
(2) 情報基盤システム.....	40
(3) 事業実績.....	42
(4) 利用状況.....	43
(5) センターイベント.....	49
(6) 各種委員会	49
(7) センター規則.....	51

1. 部門概要・業績

(1) 部門教職員(2017年3月現在)

【センター長(兼)】

教授：高橋 寛

【情報基盤部門】

教授：川原 稔

准教授：阿萬 裕久

助教(兼)：佐々木 隆志

【情報メディア教育部門】

教授(兼)：田中 寿郎

講師：仲道 雅輝

【学術情報システム部門】

教授：中川 祐治

教授：野口 一人

【その他】

教育支援者：菊川 佳代

【総合情報メディアセンター事務課】

課長

石田 昭夫

総務チーム

チームリーダー：山本 仁志，事務補佐員：白石 瞳，事務補佐員：窪田 鮎子

電子情報チーム

技術専門職員：池住 元秀，技術員：渡部 周平，技術員：梅本 祥史

技術員：吉田 あきえ，技術補佐員：陣内 恭子，事務補佐員：村上 鋼次

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣，技術専門職員(重信)：中村 勝

技術専門職員(樽味)：増田 隆司，技術員：近藤 智幸

1. 部門概要・業績

(2) 部門概要

【情報基盤部門(Division of Network and Computing)】

愛媛大学における情報システム、情報ネットワーク、情報セキュリティの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度な情報通信技術及び情報セキュリティ技術の導入・運用管理・教育、情報セキュリティ体制の確立・運用管理等、高信頼・高機能の情報ネットワーク及び情報システムを構築することをその目標としている。

平成 28 年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

情報基盤システム（平成 26 年 9 月 1 日稼働）は、情報ネットワーク、情報システム、情報教育用 PC から構成されている。情報ネットワークに関しては、データセンターを核として愛媛大学の主要キャンパス（城北、重信、樽味、持田）を耐故障性が高められた 40Gbps 回線（10Gbps×4）で接続したコンピュータネットワーク（MAN）及び城北キャンパス―重信キャンパス間を冗長系 32Gbps ファイバーチャネルで接続したストレージエリアネットワーク（SAN）で構成しており、高信頼性・高機能性を実現したものである。

情報システムに関しては、通常業務が安定的に行える広域仮想化統合環境を構築して安定的な運用が行えるようになってきている。これには、学内向けの OS 及び Web のホスティングサービスを数百のレベルでサポートできる人的・機械的体制が含まれている。情報システムを全て仮想化統合環境下で運用できることにより、耐障害性の高度化、無停止運用、事業継続計画（BCP）が可能となっている。

情報教育用 PC に関しては、附属学校等を含む愛媛大学全体の情報教育を行えるように、高等学校以上を対象とした教育用 PC を 1,122 台、中学校・小学校・特別支援学校を対象とした初等教育用 PC を 112 台導入し、合計 1,234 台が全学の演習室等に設置されている。初等教育用 PC では、タッチパネルによる直観的な操作が行える点に、教育用 PC では、医療データ等の表示を正確に読み取れる表示再現能力に重点を置いて導入している。

この情報基盤システムは、総合情報メディアセンター事務課と共同して安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは情報基盤システム保守定例会「システム状況検討会」を開催し、情報ネットワーク及び情報システム（サーバ群、パソコン端末群）の障害対応や改善について指導的役割を果たした。教職員と業者との担当部分を明確にして、専門家がそれぞれの担当部分について運用管理・監視・障害対応が行える体制を構築して、安定した運用を行い続けている。運用管理の補助を行うために、総合情報メディアセンター事務課を中心に申請システムが開発され、セキュアゲートウェイ申請及びホスティングサービス申請向けのオンライン申請システムが運用されている。

2) 情報セキュリティ対策

最高情報セキュリティ責任者（CISO）のもとに愛媛大学コンピュータセキュリティインシデント対策チーム（EU-CSIRT）を構築し、愛媛大学の情報セキュリティに関する技術的な支援を行える体制を整備した。さらに、文部科学省から要請された情報セキュリティ基本計画及び工程表（平成 28 年（2016）度～平成 30 年（2018）度）の案を作成し策定された。平成 28 年 11 月には、学外公開申請書が提出されている学内のサー

1. 部門概要・業績

バに対して情報セキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見されたサーバ管理者には検査結果を通知して、改善あるいは廃止等の対策勧告を行った。

3) 学習管理システムの運用管理・構築

情報基盤システムとは独立に運用を行っている学習管理システム Moodle の高負荷な本運用を平成 26 年 4 月から開始している。高負荷授業中の常時監視及び適宜最適化を行うことで安定運用ができる体制を整えてきた。情報セキュリティ対策及びシステムメンテナンスも継続的に行っている。現状の Moodle では情報セキュリティ上の問題が発生することが判明しているため、Moodle の次期バージョン（バージョン 3）の構築を行い、平成 29 年 4 月からの本運用に備え稼働テストを行っている。

4) ホスティングサービスの運用管理

情報基盤システムが更新されたことにより、学内への多くのホスティングサービスに対応できる環境が整備され正式運用を開始した。平成 29 年 3 月現在で、OS ホスティング 45 件、Web ホスティング 77 件がサービスされている。制度的にも整備を行い、研究活動や教育活動、更には、地域連携や社会連携にも活用できるプラットフォームとして利用が可能となっている。部局等へのメールサービスについても、ホスティングサービスの一形態として再定義し、運用体制を整備している。

5) クラウドメールの運用管理

平成 26 年 4 月よりマイクロソフト社 Office 365 を用いて、愛媛大学アカウントを認証基盤とした全学クラウドメールを学生・教職員全員を対象として運用を開始した。Office 365 に関しては、マイクロソフト社による仕様変更等によるトラブルに対しても、適宜対応を行い安定運用に努め続けている。

6) 遠隔拠点の整備

愛媛大学では、地域・社会連携等のため愛媛県内に多くの遠隔拠点を抱えている。遠隔拠点においては、主要キャンパスと変わらない情報ネットワーク環境を提供するため、総合情報メディアセンターでは VPN (Virtual Private Network) による遠隔拠点への情報ネットワークを構築して供給している。平成 29 年 2 月に農学部附属農場を VPN(光)接続に変更した。現在、遠隔拠点用情報ネットワークは 19 地点で、遠隔拠点は新情報基盤システムの一部として機能しており、情報基盤システムとしての安定した運用管理体制となっている。

7) 総合情報メディアセンター第 2 部会（情報資源・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第 2 部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報資源及び情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報資源・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項について必要に応じて教員コア会議・センター会議への審議送り及び学長や役員会との調整作業を行っている。平成 28 年度の部会は、第 1 回：4 月 18 日、第 2 回：5 月 16 日、第 3 回：6 月 13 日、第 4 回：7 月 12 日、第 5 回：8 月 8 日、第 6 回：9 月 26 日、第 7 回：10 月 17 日、第 8 回：11 月 14 日、第 9 回：12 月 12 日、第 10 回：1 月 16 日、第 11 回：2 月 13 日、第 12 回：3 月 13 日に開催した。愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ対応の役割も果たした。

1. 部門概要・業績

8) 愛媛大学情報セキュリティセミナーの開催

情報通信技術は導入しただけで終わりという訳ではなく、常に情報セキュリティに注意を払う必要があり、場合によっては、情報セキュリティの面から導入した情報システム等の更新を考える必要もあるため、平成28年9月21日(水)に教職員を対象にした「情報セキュリティセミナー」を開催した。国立情報学研究所教授高倉弘喜氏から「インシデント発生を想定したレジリエントなサイバー攻撃対策」について、最近の具体的な状況やこれからの全国的な取組み等を、具体的な事例を交えて話があった。

【情報メディア教育部門 (Division of Multimedia Education)】

情報メディア教育部門は、高度情報化技術を活用した情報リテラシー教育及び各種のマルチメディア教育のシステム開発を研究し、実践方法の検討を行うこと、さらに、愛媛大学の情報リテラシー教育を企画・立案するとともに実施方法の検討を行うことをその目標としている。

平成28年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 教育デザイン室の運営

各学部・研究科等において、愛媛大学教育改革促進事業（愛大 GP 事業）で新設された種目3（授業改善プロジェクト）等を活用し、共通教育科目及び各学部・研究科において、eラーニング教材などICTを用いた授業方法を拡充する。

また、各補助事業が終了する平成29年度に向け、今年度中に今後の愛媛大学向け支援の方向性を見出すことを目的として、教育デザイン室の業務内容を整理し、利用者の混乱を招かないための検討を進めた。さらに、広く教職員の意見を反映するために、Moodle上で教育デザイン室の今後についてのアンケートを平成29年1月13日～1月31日までを期間として実施した。利用者より数多くの業務継続に向けたコメントを頂いた。

2) eラーニングコンテンツの制作実績

平成28年度制作予定の27コンテンツ（計146講）について、愛大GPに関連するものを2コンテンツ（計11講）、各学部6コンテンツ（計48講）、その他18コンテンツ（計87講）を作成した。そのうち、次年度完成予定のものが3コンテンツ（13講）である。

No.	科目	備考
1	プレゼンテーションスキル【工学部】	1講／全1講
2	日本語・英語共同学習コンテンツ【附属高校】	10講／全10講
3	日本語リテラシー入門 改訂【共通教育】	1講／全1講
4	こころと健康 改訂【共通教育】	1講／全1講
5	シミュレーション教育教材【医学部】	開発中止
6	イントネーションの文化と会話～KiraKira イントネーション語入門～【SUIJI 推進室】	8講／全8講
7	化学【社会共創学部】	15講／全15講
8	微分積分【社会共創学部】	15講／全15講
9	社会共創学概論【社会共創学部】※Moodle 支援	8講／全8講
10	法文学部特別講演会 DVD 制作【法文学部】	3講／全3講
11	学術フォーラム	2講／全2講
12	高等教育政策論（改訂）	2講／全2講

1. 部門概要・業績

13	プレゼンテーションスキル【高大接続】	1講／全1講
14	化学【高大接続】	1講／全1講
15	日本語リテラシー【高大接続】※Moodle 支援	2講／全2講
16	大学生のための「安全・安心」の基礎講座【知プラ事業】	15講／全15講
17	太陽光利用型植物工場における知的農作物生産【知プラ事業】	8講／全8講
18	昆虫の世界【知プラ事業】	6講／全8講（次年度持越）
19	飛行機はなぜ飛ぶのか【知プラ事業】	8講／全8講
20	大学の知の活用【知プラ事業】※撮影のみ	4講／全4講
21	海洋科学概論【ICOM/知プラ事業】	3講／全3講
22	愛媛学【COC+事業】	1講／全1講
23	えひめ学【COC+事業】	2講／全2講
24	愛媛新聞社提供講座【COC+事業】	8講／全8講
25	経済同友会提供講座【COC+事業】	0講／全8講（次年度完成予定）
26	職業選択準備講座【COC+事業】	0講／全3講（次年度完成予定）
27	教員免許講習①【8大学連携・KAGAC】	7講／全7講
28	教員免許講習②【8大学連携・KAGAC】	7講／全7講
29	教員免許講習③【8大学連携・KAGAC】	7講／全7講

3) 修学支援システムとの連携

高大接続科目の Moodle コースへ科目等履修生（附属高校）を自動登録について、教育支援課と履修者データを受け渡しすることとなった。

4) 「情報リテラシー入門」の TA・SA 個別研修

教育・学生支援機構 教育企画室主催の「平成 28 年度 愛媛大学 TA・SA 研修会」の分科会として以下のとおり実施した。

日時：平成 28 年 4 月 8 日（金） 16:20～17:30

場所：総合情報メディアセンター3階 第2・第3演習室

対象：共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」を担当する大学院生と学部生。約 30 名。

内容：

- ・ TA/SA の業務確認並びにマネジメントについて
- ・ 連結講義における TA と SA の役割について
- ・ eラーニングシステムの利用について
- ・ グループワーク
- ・ センター機器(連結講義システム)の操作

5) 「情報リテラシー入門」の教員・TA・SA 用コースの作成

eラーニングシステム上に情報リテラシー入門担当教員・TA・SA 専用コースを作成した。講義手引き、講義用説明資料・ビデオなど、毎回の講義資料を共有するとともに、TA・SA が毎回の業務報告を提出し、情報交換を行う場を提供した。

1. 部門概要・業績

6) 共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」の実施

全学共通シラバスのもと, eラーニングによる共通コンテンツを活用した授業「情報リテラシー入門 I」及び「情報リテラシー入門 II」の実施を支援した。

第1回授業ではオンラインによる習熟度別振り分け試験を実施し, その結果に基づいて学生を習熟度別にクラス振り分け, 第2回以降の授業を行った。また, コース作成により, 各授業の理解度を確認するオンライン確認テスト, 期末試験の勉強のためのオンライン模擬テスト, 成績評価のためのオンライン期末テストの実施を支援した。

7) 教員説明会

「平成29年度 情報リテラシー入門担当教員説明会」を以下のとおり実施した。

日時: 平成29年3月27日(月) 15:00~16:00

場所: 総合情報メディアセンター2階 メディア演習室

対象: 共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」担当教員20名

内容:

- ・平成30年度からの教員のローテーションについて
- ・期末試験問題の確認と修正作業について
- ・Q2の期末試験の監督補助について
- ・TA・SAの配置について

8) 総合情報メディアセンター第3部会「eラーニング推進部会」に於いてeラーニング推進について種々の検討を行った。開催日程及び審議・報告事項等は下表のとおりである。

回	日時	審議事項等
第1回	平成28年4月14日(木)	平成28年度「eラーニング推進部会」委員について 平成28年度「eラーニング推進部会」開催日について 平成28年度eラーニング推進部会事業計画(案)について 平成28年度課題スケジュールの作成について 平成28年度コンテンツ開発計画(案)について ICT利用状況アンケートの実施について
第2回	平成28年6月9日(木)	平成28年度課題スケジュール(案)について 附属高校科目等履修(高大接続)生徒のMoodleコース自動登録について 2016年度前期Moodle利用状況速報 教育デザイン室アンケート結果報告 Moodle3バージョンアップ検討の経過報告
第3回	平成28年7月14日(木)	教育デザイン室業務の今後について Moodleバージョンアップに伴うMoodleの停止日時について Moodle3への移行についての経過報告

1. 部門概要・業績

第4回	平成28年10月20日(木)	動画作成配信「MovieCommons」の必要性の有無について 教育デザイン室の体制が確保できない場合の業務について 平成28年度コンテンツ開発計画の変更・追加について 平成28年度課題スケジュール中間報告 平成28年度「第4クォーター・eラーニング推進部会」開催日について 2016年度後期 Moodle 利用申請状況について ICT 研修会開催報告
第5回	平成28年12月16日(金)	MovieCommons (MCG)がなくなった際の動画の対応について 教育デザイン室の体制が確保できない場合の業務について 教育デザイン室の業務に関するアンケートについて 平成28年度コンテンツ開発計画の変更・追加について 2016年度後期 Moodle 利用状況速報 Moodle3 への移行について
第6回	平成29年1月27日(金)	平成29年度 eラーニングコンテンツ開発募集について 教育デザイン室の今後についてのアンケート途中経過報告 平成29年度課題スケジュールの最終報告に向けて
第7回	平成29年3月10日(金)	課題スケジュール最終報告 平成29年度 eラーニング推進部会委員について Moodle ポータルの更新について 教育デザイン室の今後についてのアンケート集計結果 平成28年度 Moodle コース申請状況について Moodle3 の運用開始時期未定による問題について

9) 著作権戦略検討部会に委員(仲道雅輝)として参加し、愛媛大学の著作権戦略について検討を行った。

10) 教育・学生支援機構主催の「FDスキルアップ講座」及び「テニユア・トラック研修」の講師として9講座合計9回を実施した。

- ・「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～」(仲道雅輝, 平成28年4月5日)
- ・「統計ソフト (Access) 利用法」(都築和宏, 平成28年8月1日～9月30日※eラーニング)
- ・「アカデミックプレゼンテーション (PowerPoint 編)」(仲道雅輝, 平成28年8月1日～9月30日※eラーニング)
- ・「効果的な eラーニング活用法 (超入門編)」(仲道雅輝, 平成28年9月12日)
- ・「学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS 動機付けモデルの活用」(仲道雅輝, 平成28年9月13日)
- ・「PowerPoint の基本的な使い方」(都築和宏, 平成28年9月15日)
- ・「eラーニング入門～Moodle を利用してきめ細やかな学習支援を実現しよう～」(佐々木隆志, 仲道雅輝, 平成28年9月16日)
- ・「動画教材作成法」(都築和宏, 平成28年9月23日)
- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」(仲道雅輝, 平成28年12月15日)

11) Moodle 利用数の推移 (平成23年～平成28年度)

2015年度と比較し、コース申請数1,231 (227増: 122.6%)、申請教員数481名 (73名増: 117.9%)の増加となった。

1. 部門概要・業績

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
コース数	349	410	569	981	1,004	1,231
申請教員数 (実数)	93名	123名	177名	269	408	481名
登録学生数 (累計)	17,785名	21,279名	25,331名	60,399名	52,712	80,980

※2016年度の最終集計結果は、2017年2月16日現在の数値である。

【学術情報システム部門 (Division of Information System)】

学術情報システム部門は、学内ネットワークを含めた情報システムの安全かつ効率的な運用を行うための研究開発及び学内の先端的研究センターへのデータベース構築、情報発信面での研究協力・支援を行う。

平成28年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学と松山大学との連携事業

「オープンデータの利活用に関する Code for DOGO の活動とアプリ開発」と題して、本学の教員と学生及び松山大学の教員と学生によるチームを構成し、行政機関が保有するオープンデータを用いた活動の2年目を迎えた。活動としては、昨年同様月一回の定例会(4/14, 5/7, 6/2, 7/1, 9/11, 10/26, 11/26, 12/17, 1/20, 3/4に開催)と各種セミナーの開催(弓削商船高専におけるセミナー6/3, 愛媛県高度情報化会議における講演10/12, マッピングマーティ11/26, E2D3 セミナー12/17, チャレンジオープンガバナンスワークショップ12/17, オープンデータフォーラム1/20, デザインスプリントワークショップ3/4), International Open Data Dayへの参加(3/4), 東京大学空間情報科学研究センター「次世代社会基盤情報寄付研究部門」及び一般社団法人「社会基盤情報流通推進協議会」が主催する『アーバンデータチャレンジ2016』(6/27, 10/4)及び東京大学公共政策大学院が主宰する「チャレンジオープンガバナンス2016」へ参加した。

2) e-まつやま最先端情報技術研究会における研究及び人材育成

2008年に、愛媛大学・松山市・松山法人会及び松山商工会議所による合同研究会「e-まつやま最先端情報技術研究会」が発足し9年目を迎えた。本研究会は、先進的な情報通信技術全般について調査・研究等を行い、その有効性等を検証するとともに、地域の人材育成や地域産業の活性化を図ることを目的として設立されたが、昨年度はオープンデータの公開と利活用について重点的に進めることとなり、Code for DOGO と連携して取り組みを行った。

3) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を引き続き学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より5名の学生(学部生及び大学院生)を選抜し、7月6日に河原学園において委嘱式が執り行われた。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集に当たった。また、愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会では引き続き顧問として、セミナーの講師招請などを行った。

4) 愛媛大学業務継続計画策定ワーキンググループ

平成23年度から業務継続計画策定のために開始されたワーキンググループで、これまでに策定された計画(BCP)の見直しと、その推進計画について議論した。今年度は特に愛媛大学緊急連絡サイトへのアクセス訓練を行うこ

1. 部門概要・業績

ととなり、12月20日（火）10時から16時に学生と教職員に対して aidai99.jp へアクセスし、安否情報の書き込み練習を実施した。当日のアクセスは1,310件で全学の10%、城北地区では14%となっており、今後アクセス数を増やすための啓蒙活動が必要であることが明らかとなった。

5) 「キャンパス IT 体験会 2016」の実施

9月14日（水）13:00から16:00に総合情報メディアセンターにおいて、附属高校の「グローバル・エデュケーション」の授業として「キャンパス IT 体験会 2016」を実施した。講義は「Processingをはじめよう」（担当：中川）、「インターネットの中身を覗いてみよう」（担当：野口）の2つを担当した。

1. 部門概要・業績

(3) 教員活動実績



中川 祐治

NAKAGAWA Yuji

〈職名〉：教授

〈生年月日〉：1957年12月14日

〈電話〉：089-927-9569

〈E-mail〉：nakagawa.yuji.mk@ehime-u.ac.jp

〈職歴〉：

○(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研究部
研究員(1986年4月～1989年12月)

○鹿児島大学助教授(1990年1月～1990年3月)

○鹿児島大学情報処理センター主任/助教授(1990年
4月～1993年3月)

○国際基督教大学助教授(1993年4月～1995年3月)

○国際基督教大学準教授(1995年4～1996年6月)

○愛媛大学教授(1996年7月)

〈学歴〉：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修
了

〈学位〉：1986年理学博士(東京都立大学)

〈免許・資格〉：

○(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネイチ
ャーゲームリーダー」(1999年8月)

○NPO 法人自然体験活動推進協議会認定「自然体験活
動リーダー」(2003年4月)

〈所属学会〉：人工知能学会，情報処理学会，電子
情報通信学会，日本データベース学会，ACM，コンピ
ュータ利用教育学会，高エネルギー物理学研究者会議，
日本環境教育学会，日本環境教育フォーラム

〈専門分野〉：情報認識学，高エネルギー物理学，
環境教育

〈研究課題〉：画像認識・理解の研究，遠隔教育シ
ステムの研究，環境教育と情報認識学の融合

〈部局内貢献〉：

○総合情報メディアセンター会議委員(2011年4月
～)

○第1部会(システム最適化)部会長(2011年7月
～)

○業務継続計画策定ワーキンググループ(2011年11
月～)

○総合情報メディアセンター在り方検討ワーキング
グループ(2014年～)

〈学外審議会・委員会活動〉：

○愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問(2007年
12月～)

○松山市高度情報化推進委員会専門委員(2016年7
月～2017年3月)

○松山市斎場施設予約システム再構築事業業務委託
総合評価委員(2016年10月～2017年3月)

〈調査・研究会等への貢献〉：

○愛媛大学社会連携推進機構研究協力会「e-Learning
研究部会」代表(2007年7月～)

○e-まつやま最先端情報技術研究会理事(2008年4月
～)

〈講演実績〉：

○「Processingをはじめよう」，キャンパスIT体験
会2016，愛媛県(2016年9月14日)

〈地域啓発活動・教育機関支援活動〉：

○Code for DOGO代表(2015年3月～)

○愛媛県シェアリングネイチャー協会理事及び事務局
長(2005年4月～)

〈ボランティア活動〉：

○愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェアリン
グネイチャーの会運営委員長(2007年1月～)

1. 部門概要・業績



野口 一人

NOGUCHI Kazuto

<職名> : 教授

<電話> : 089-927-8802

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○日本電信電話株式会社フォトニクス研究所・他 勤務 (1986年4月～2011年6月)

○愛媛大学教授 (2011年7月)

<学歴> : 早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了

<学位> : 2001年博士 (工学) (早稲田大学)

<免許・資格> : 第一種衛生管理者, 有機溶剤作業主任者, 特定化学物質等作業主任者, レーザ機器取扱技術者 (第1種), 特定高圧ガス取扱主任者

<所属学会> : 電子情報通信学会, 応用物理学会, IEEE, 遠隔医療学会

<専門分野> : 光デバイス, 光波長多重通信, 情報ネットワーク

<研究課題> : 光・情報ネットワークの高度化, 医療 ICT

<部局内貢献> :

○総合情報メディアセンター会議委員 (2011年7月～)

○情報資源・セキュリティ管理部会委員 (2011年7月～)

○安全衛生管理委任者 (2013年1月～)

○eラーニング推進部会委員 (2016年4月～)

<調査・研究会等への貢献> :

○大学プログラミングオープンチャレンジ(EPOCH@まつやま)実行委員 (2011年)

○第73回応用物理学会学術講演会 現地実行委員 (2012年9月)

○電子情報通信学会 ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会 現地世話人 (2012年12月)

○電子情報通信学会 光通信システム研究会 現地世話人 (2013年1月)

○日本胎児心臓病学会 日本胎児遠隔医療研究会幹事 (2013年2月～)

○えひめ IT フェア 2013 (2013年6月)

○電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ研究会 現地世話人 (2013年12月)

○IEEE 四国支部 Vice Chair (2017年1月～)



川原 稔

KAWAHARA Minoru

<職名> : 教授

<電話> : 089-907-6700

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : kawahara@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○京都大学助手 (1990年4月～2004年2月)

○愛媛大学助教授 (2004年3月～2007年3月)

○愛媛大学准教授 (2007年4月～2013年1月)

○愛媛大学教授 (2013年2月)

<学歴> : 京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了

<学位> : 2003年博士 (情報学) (京都大学)

<所属学会> : 電子情報通信学会, 情報処理学会

<専門分野> : 情報通信システム, 知能情報学, 情報

保障, 医療情報学, オペレーションズリサーチ

<研究課題> : ○オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分散システムに関する研究

○情報ネットワークを基盤としたロケーションウェアに関する研究

○視覚情報保障の情報通信技術応用に関する研究

○情報通信技術による視覚特性の計測に関する研究

○数理モデルを用いた地域連携・産学連携問題解決法に関する研究

<部局内貢献> :

○総合情報メディアセンター会議委員 (2011年4月～)

○第2部会 (情報資源・セキュリティ管理部会) 部長 (2011年7月～)

○システム状況検討会 (情報基盤システム保守定例会) 議長 (2011年4月～)

○愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー (2012年

1. 部門概要・業績

9月～)

- 情報セキュリティ専門委員会委員長(2012年9月～)
- 情報セキュリティ委員会委員(2012年9月～)
- CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)(2016年度～)



阿萬裕久

AMAN Hirohisa

<生年月日> :

1973年8月8日

<職名> : 准教授

<電話> : 089-927-8981

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : aman@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

- 愛媛大学工学部助手(2001年4月～2005年3月)
- 愛媛大学工学部特任講師(2005年4月～2006年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科特任講師(2006年4月～2007年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科講師(2007年4月～2013年9月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター准教授(2013年10月～)

<学歴> :九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了

<学位> :2001年 博士(工学)(九州工業大学)

<免許・資格> :第一種衛生管理者

<所属学会> :情報処理学会, 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, 日本知能情報ファジィ学会, 米国電気電子学会(IEEE)

<専門分野> :ソフトウェア工学

<研究課題> :

- ソフトウェア品質に関する定量的尺度の研究
- ソフトウェアの効率的な品質向上に向けた数理モデルの活用に関する研究
- ソフトウェア開発活動に対する品質マネジメントの実践に関する研究

<部局内貢献> :

- 総合情報メディアセンター会議委員(2013年10月

<学外審議会・委員会貢献> :

- 電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究専門委員会専門委員(2007年4月～)

～)

- 第2部会(情報資源・セキュリティ管理部会)委員(2011年7月～)

- 第3部会(eラーニング推進部会)委員(2015年4月～)

- 情報セキュリティ専門委員会委員(2014年4月～)

- 修学支援システム検討専門委員(2015年9月～2016年2月)

- CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)(2016年度～)

<学外審議会・委員会貢献> :

- 日本ソフトウェア科学会学会誌編集委員(2013年4月～)

- 電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会 専門委員(2003年5月～)

- 情報処理学会ソフトウェア工学研究会 運営委員(2006年5月～2017年3月)

- 情報処理学会論文誌ソフトウェア工学特集号編集委員(2015年2月～)

- 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE 2016 プログラム共同委員長

- 松山市農地台帳システム再構築事業業務委託総合評価委員

<地域啓発活動・教育機関支援活動> :

- 国立情報学研究所 トップエスイー 講師(2008年4月～2016年3月)

- 四国医療技術専門学校 非常勤講師(2006年10月～)

<講演実績> :

- 招待講演「ソフトウェアメトリクスについて知っておきたいこと」(ソフトウェアテストシンポジウム2014 in 四国, 2014年11月14日)

- 招待講演「メトリクス研究の一展開: 人に依存するファクタの影響について」(ソフトウェア信頼性研究会第11回ワークショップ, 2015年11月14日)

1. 部門概要・業績



仲道 雅輝

NAKAMICHI Masaki

<生年月日> :

1971年5月8日

<職名> : 講師

<電話> : 089-927-8800

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○学校法人日本福祉大学 事務職員

(1995年4月～2011年9月)

○愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 助教

(2011年10月)

○愛媛大学 総合情報メディアセンター 兼 教育・学生支援機構教育企画室 助教 (2012年7月)

○愛媛大学 総合情報メディアセンター教育デザイン室長 兼 教育・学生支援機構教育企画室 助教 (2013年4月)

○同所属のまま 講師となる (2013年12月)

<学歴> :

日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業 (1995年3月)

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻修士課程修了 (2009年3月)

<学位> :

1995年 学士 (社会福祉学) (日本福祉大学)

2009年 修士 (教授システム学) (熊本大学)

<免許・資格> :

○eLC 認定 e-Learning Professional 資格 (2009年)

- ・e-learning マネージャー
- ・ラーニングデザイナー
- ・e-learning エキスパート
- ・e-learning コンサルタント
- ・コンテンツクリエイター

○中学校社会科1種免許状 (1995年)

○高等学校教諭1種免許状 (公民) (1995年)

○養護教諭1種免許状 (1995年)

○図書館司書資格 (1999年)

○日本スノーボード協会 (JSBA) 1級 (1996年)

○中型自動車運転免許 (2011年)

<所属学会> : 日本教育工学会, 教育システム情報学会, 日本教育メディア学会, 大学教育学会, 大学行政管理学会, 日本リメディアル教育学会, 初年次教育学会, 日本カツオ学会,

<専門分野> : 教授システム学, インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計), 教育工学, e-learning, FD・SD,

<研究課題> :

○インストラクショナル・デザイン (ID) 手法を活用した, 効果的な授業方法 (ICT を活用した授業改善・授業コンサルテーション) に関する研究

○高等教育機関における全学的な e-learning 推進に関わる研究

○FD・SD 活動の普及要因に関わる研究

○学生能力開発における成長過程に関わる研究

○組織開発・組織変革に関わる研究

<部局内貢献> :

○第3部会 (eラーニング推進部会) 部会長

○教育デザイン室長 (事業実施責任者)

○eラーニング推進専門委員会委員

○学修ポートフォリオ開発等に関する専門委員会委員

○テニユアトラック能力開発室委員

○著作権戦略検討委員会委員

○愛媛大学教育改革促進事業 (愛大 GP) 教育改革諮問委員会委員

○愛媛大学 「愛大 GP 事業」 各 GP 運営委員

○メディアサポート映像部顧問教員 (SCV)

○総合情報メディアセンター会議 委員

○総合情報メディアセンターコア会議 委員

○授業コンサルテーション

<学外審議会・委員会貢献> :

○日本教育工学会 企画委員会 委員, 2014～

○文部科学省 大学間連携共同推進事業 運営委員

「学士力養成のための共通教育システムを活用した主体的学びの促進プログラム」, 幹事会委員, 2012～

○文部科学省 国立大学改革強化推進事業 企画委員

1. 部門概要・業績

「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」, 共同実施モデル検討WG主査校, 2012～

○e-Knowledge コンソーシアム四国企画委員, 2013～

○日本教育工学会企画委員会 委員, 2013～

<講演実績>:

○インストラクショナル・デザインによる授業設計－評価③: 授業評価の方法と活用. 高知学園短期大学看護学科. (2016.4.19)

○インストラクショナル・デザインによる授業設計－設計④: 授業計画の作成. 高知学園短期大学看護学科. (2016.6.14)

○第 26 回授業デザインワークショップ. 今治湯浦ハイソホテル. (2016.7.2-3)

○インストラクショナル・デザインによる授業設計－開発⑤: 授業教材の開発(テキストの分析と補助教材). 高知学園短期大学看護学科. (2016.7.12)

○インストラクショナル・デザインによる授業設計－開発⑥: 授業教材の開発(学習指導案の作成). 高知学園短期大学看護学科. (2016.8.2)

○看護技術教育に ID 理論を活用する: 授業改善の実践と成果から－パブリッシュの学習経験の要因モデルとアクティブラーニングワークショップ. 愛媛県立医療技術大学. 愛媛県看護教員継続研修. 愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課. (2016.8.10-11)

○学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用. 愛媛大学. (2016.8.26)

○効果的な e ラーニングの活用方法(超入門編). 香川県立保健医療大学. (2016.8.29)

○第 27 回授業デザインワークショップ. 愛媛大学. (2016.8.31-9.2)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ. 創価大学. 立川グランドホテル (2016.9.5-6)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ-フォローアップ研修-. 創価大学. 文学部 (2016.9.7)

○効果的な e ラーニングの活用方法(超入門編). 愛媛大学. (2016.9.12)

○学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショ

ナル・デザイン (ID) 入門～ARCS 動機づけモデルの活用～. 愛媛大学. (2016.9.13)

○e ラーニング入門～きめ細やかな学習支援を実現しよう～. 愛媛大学. (2016.9.16)

○課題分析による授業の再構成と学習動機を高める授業づくり. 山口県立大学. (2016.9.20)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ-フォローアップ研修-. 創価大学. 看護学部 (2016.10.21)

○「次世代リーダー養成研修(第3回)」徳島大学. 講師 (2016.10.28)

○インストラクショナル・デザインを活用した e-Learning. e ラーニング講演会. 東京医科歯科大学. (2016.11.29)

○学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法. 愛媛大学. (2016.12.15)

○シラバス見直しコンサルテーション (FD セミナー). 高大接続システム改革フォーラムー北海道における教育の情報科と質の向上ー. AP 事業シンポジウム. 千歳科学技術大学 (2017.2.18)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ-フォローアップ研修-. 創価大学. (2017.3.22)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ. 創価大学. ホテルコンチネンタル府中. (2017.3.23-24)

○アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ. 創価大学. ホテルコンチネンタル府中. (2017.3.25-26)

<地域啓発活動・教育機関支援活動>:

○平成 28 年度基本研修第7部・新任副課長級研修. 新居浜市役所. マリンパーク新居浜 (2016.4.13). 講師

○平成 28 年度基本研修第8部・新任課長級研修. 新居浜市役所. マリンパーク新居浜 (2016.9.23-24). 講師

○私の目指す職員像～ポートフォリオ～. 平成 28 年度基本研修第1部・新人職員研修. 新居浜市役所. マリンパーク新居浜 (2016.9.28). 講師

1. 部門概要・業績



佐々木 隆志

SASAKI Takashi

<生年月日> :

1974年3月16日

<職名> : 助教(兼)

<電話> : 089-927-8354

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○京都科学技術専門学校(京都府京都市) 非常勤講師
(2001年4月~2003年3月)

○京都コンピュータ学院(京都府京都市) 非常勤講師
(2004年4月~2005年3月)

○国立国会図書館関西館(京都府精華町) 非常勤調査員
(2004年6月~2007年2月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2004年10月~2005年3月)

○奈良産業大学(奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師
(2005年4月~2007年2月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2005年12月~2006年3月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2006年12月~2007年2月)

○愛媛大学総合情報メディアセンター助手 (2007年2月)

○愛媛大学経営情報分析室助教 (2013年10月)

<学歴> :

○京都大学理学部卒業(物理学専攻) (1998年3月)

○奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士前期課程修了 (2000年3月)

○京都大学大学院情報学研究科博士後期課程単位取得

退学 (2004年3月)

<学位> : 2000年修士(工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

<所属学会> : 情報処理学会, IEEE

<専門分野> : 情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning

<研究課題> :

○e-Learning システムのデザインと効果分析

○自律分散ネットワーク

○大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ

○自律分散音響測位システム

<部局内貢献>

○EPOCH@まつやま実行委員 (2007年度~)

○eラーニング推進検討ワーキンググループ (2009年度~)

○CSIRT(情報セキュリティ対策チーム) (2016年度~)

<学外審議会・委員会活動> :

○e-Knowledge コンソーシアム四国企画委員

○システム専門委員 (2008年~)

○eまつやま最先端技術研究会理事 (2010年度~)

○情報処理学会四国支部評議員 (2010年度~)

○Treasurer of IEEE Shikoku Section (2011年~)

○国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員

○日本 Android の会四国支部

○愛媛情報セキュリティ研究会 (通称セキュリティみかん)

○オープンセミナー愛媛実行委員

○オープンソースカンファレンス愛媛実行委員

○情報セキュリティシンポジウム道後実行委員

○Code for DOGO 委員 (2015年3月~)

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

【著書】

野口 一人

○情報リテラシー入門 2017年版」, 野口一人, 分担執筆 第7章 情報利活用: プレゼンテーション, 2017年3月.

仲道 雅輝

○「教育評価との付き合い方 - これからの教師のために - 」, (共著) 関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅輝, さくら社出版, 2016年.

阿萬 裕久

○「ソフトウェア工学の基礎XⅢ」, 阿萬裕久, 横川智教 編, 近代科学社, 2016年11月.

【論文(過去5年間)】

中川 祐治

紀要・抄録

○黒目中心座標の高速検出と Saccade の検出頻度, 佐々木良・中川祐治, 平成 27 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.193, 2015.

○画像認識による玉葱頭部の判別, 吉本祐真・中川祐治, 平成 27 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 194, 2015.

○画像処理による玉葱の根の判定, 吉本祐真・中川祐治, 平成 26 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 210, 2014.

○全方向微分フィルタによる黒目中心検出の精度評価, 佐々木良・中川祐治, 平成 26 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 211, 2014.

○タブレットと家庭内 PC による Home Security System, 池田将隆・佐々木良・中川祐治, 平成 26 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 212, 2014.

○全方向微分フィルタによる黒目の検出, 宮内泰明・中川祐治, 平成 25 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 232, 2013.

○受講者観察システムにおける Saccade 有無の検出, 中北真偉・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告 Vol. 112, No. 300, pp. 67-71, 2012.

○Android タブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告 Vol. 112, No. 225, pp. 41-45, 2012.

○Android タブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 平成 24 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 236, 2012.

○受講者観察システムにおける Saccade の検出, 中北真偉・中川祐治, 平成 24 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 237, 2012.

○背景領域削除に対するピンぼけ度合いの影響評価, 吉本祐真・中川祐治, 平成 24 年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp. 238, 2012.

2. 教育研究実績

野口 一人

国際学会発表論文

○Remote Seminar Trials of Fetal Echocardiography in Japan, K. Noguchi, The 7th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2013.

○Remote Seminar Trial of Fetal Echocardiography over SINET4, K. Noguchi, M. Kawataki, E. Abe, H. Uose, and S. Urushidani, The 6th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2012.

紀要・抄録・報告

○学術ネットワーク (SINET) を使った胎児心エコーセミナーの報告, 川瀧元良・清水周次・安德恭彰・工藤孔梨子・波々伯部佳子・野口一人, 魚瀬尚朗, 第19階日本遠隔医療学会学術大会, A-1-3, p.16, 2015.

○ [特別講演] 超広帯域映像伝送技術の研究開発, 野口一人, 映像情報メディア学会技術報告, No. 35, BCT2014-79, 2014.

川原 稔

原著論文

○Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.

○変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp.69-76, 2015.

○テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp.111-125, 2015.

○印刷文字を閲覧する際の視条件評価チャートの提案, 高橋信行・川原稔, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 14, pp.58-67, 2014.

○オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No. 7. pp.1213-1215, 2014.

○Group replica caching scheme for optical grid networks, Optical Switching and Networking 10, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Vol. 10, pp. 223-232, 2013.

○視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・荻田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp.42-54, 2012.

○Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 23, No. 2, pp. 157-165, 2012.

○サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.

国際学会発表論文

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman・Aji Ery Burhandenny・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp. 29-35, 2017.

2. 教育研究実績

- Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121-128, 2016.
 - Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4-11, 2016.
 - Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman・Yuta Tanaka・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240-244, 2016.
 - Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny・Takashi Nakano・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219-230, 2016.
 - Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50-53, 2015.
 - Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp.3-4, 2015.
 - Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol.2, pp.51-56, 2014.
 - Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.
 - Mutistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.
- 紀要・抄録・報告**
- バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.116, no.512, pp.25-30, 2017.
 - メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp.247-248, 近代科学社, 2016.
 - 一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp.251-252, 近代科学社, 2016.
 - ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2016-SE-194, no.6, pp.1-8, 2016.
 - コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエンтроピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol.116, no.127, pp.131-136, 2016.
 - メソッド名の長さや構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子

2. 教育研究実績

情報通信学会技術研究報告 vol.116, no.127, pp.137-142, 2016.

○オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp.41-42, 2016.

○プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol.115, no.421, pp.1-6, 2016.

○共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価---ソースコード修正漏れの自動検出に向けて---, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp.1-8, 2015.

○開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 11 回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.

○オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.115, No.153, pp.125-130, 2015.

○オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 10 回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.

○オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2014-SE-186, no.3, pp.1-8, 2014.

阿萬 裕久

原著論文

○設備故障が旅客に与える経済的損失を評価尺度とした鉄道信号設備のライフサイクルコストの低減に関する考察, 志田洋・大串裕都・樋上喜信・阿萬裕久・高橋寛, 電子情報通信学会論文誌 D, vol. J99-D, no.5, pp.539-548, 2016.

○Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No.12, pp.2218-2228, 2015.

○変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp.69-76, 2015.

○テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol.32, No.3, pp.111-125, 2015.

○大規模 OSS 開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリージ手法, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高, 情報処理学会論文誌, Vol.56, No.2, pp.669-681, 2015.

○Feature Envy とコメント文の関連性に関する考察, 藤井里沙・天寄聡介・阿萬裕久・横川智教, ソフトウェア工学の基礎 XXI, pp.69-74, 近代科学社, 2014.

○テストケースの実行履歴に基づいたクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テスト計画手法の提案, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人, ソフトウェア工学の基礎 XXI, pp.231-240, 近代科学社, 2014.

○0-1 整数計画問題を利用した欠陥検出向けテストパターン選択法, 志田洋・樋上喜信・阿萬裕久・高橋寛・ケーワルサルージャ, 日本信頼性学会誌, Vol.36, No.8, pp.501-510, 2014.

○オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No.7, pp.1213-1215, 2014.

2. 教育研究実績

- テストの実施履歴とテスト項目間の関連情報を利用した効果的なテスト削減方法の提案と評価, 小笠原秀人・佐々木愛美・中野隆司・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2014 論文集, pp.147-151, 2014.
- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法におけるフィルタリングとその効果, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎 XX, pp.251-256, 2013.
- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法の有効性に関する実証的考察, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルに基づいた効果的なテスト選択手法の提案と実践, 小笠原 秀人・佐々木 愛美・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.
- ソースコード改変におけるコメント文の相対的な変化量に着目したフォールト潜在性の分析, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎 XIX, pp.45-50, 2012.
- A Feature Analysis of Co-changed Code Clone by Using Clone Metrics, Myrizki Sandhi Yudha・Ryohei Asano・Hirohisa Aman, IEICE Transactions on Fundamentals, Vol.E95-A, No.9, pp.1498-1500, 2012.
- 工程別の欠陥埋め込み件数の予測, 衣簀宏和・野中誠・阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2012 論文集, オンライン, 2012.
- 論理的制約条件付き 0-1 計画モデルを用いた重点レビュー計画法, 阿萬裕久, コンピュータソフトウェア, Vol.29, No.3, pp.115-120, 2012.
- ソースファイルにおけるコメントの増加傾向に着目したフォールト潜在予測, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2012 論文集, オンライン, 2012.
- オープンソースソフトウェアにおけるコメント記述およびコメントアウトとフォールト潜在との関係に関する定量分析, 阿萬裕久, 情報処理学会論文誌, Vol.53, No.2, pp.612-621, 2012.

国際学会発表論文

- A Replicated Study on Relationship Between Code Quality and Method Comments, Yuto Miyake・Sousuke Amasaki・Hirohisa Aman・Tomoyuki Yokogawa, Applied Computing and Information Technology, Studies in Computational Intelligence 695, pp.17-30, Springer, 2017.
- A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman・Aji Ery Burhandenny・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.
- A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29-35, 2017.
- Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121-128, 2016.
- Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4-11, 2016.
- Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman・Yuta Tanaka・Takashi Nakano・Hideto Ogasawara・Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240-244, 2016.

2. 教育研究実績

- Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny • Takashi Nakano • Hirohisa Aman • Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219-230, 2016.
- Behavior Analysis of Self-Evolving Botnets, Takanori Kudo • Tomotaka Kimura • Yoshiaki Inoue • Hirohisa Aman • Kouji Hirata, Proc. 2016 International Conference on Computer, Information and Telecommunication Systems (CITS2016), pp.1-5, 2016.
- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp.3-4, 2015.
- A Proposal of Maintenance Cost Model of Track Circuits, Hiroshi Shida • Hirofumi Oogushi • Yoshinobu Higami • Hirohisa Aman • Hiroshi Takahashi, Proc. 9th International Conference on Mathematical Methods in Reliability: Theory, Methods and Applications (MMR 2015), pp.408-415, 2015.
- Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol.2, pp.51-56, 2014.
- Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.
- How Developers Comment on Code Smell? An Empirical Analysis on Feature Envy, Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Risa Fujii • Hirohisa Aman, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2014 and DSD 2014, pp.1-2, 2014.
- Multistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman • Akiko Yamashita • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.
- Application of the test select method using mathematical programming model, Hideto OGASAWARA • Manami SASAKI • Takashi NAKANO • Hirohisa AMAN, Proc. 21st European System, Software and Service Process Improvement and Innovation, 2014.
- 0-1 Programming Model-Based Method for Planning Code Review using Bug Fix History, Hirohisa Aman, Proc. 5th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2013), pp.37-42, 2013.
- Application of the 0-1 Programming Model for Cost-Effective Regression Test, Hirohisa Aman • Manami Sasaki • Kei Kureishi • Hideto Ogasawara, Proc. 37th IEEE Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2013), pp.721-722, 2013.
- An Empirical Analysis of the Impact of Comment Statements on Fault-Proneness of Small-Size Module, Hirohisa Aman, Proc. 19th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2012), pp.362-367, 2012.
- An Empirical Analysis on Fault-proneness of Well-Commented Modules, Hirohisa Aman, Proc. 4th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2012), pp.3-9, 2012.

紀要・抄録・報告

2. 教育研究実績

- バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 116, no. 512, pp. 25-30, 2017.
- メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 247-248, 近代科学社, 2016.
- 一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 251-252, 近代科学社, 2016.
- ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2016-SE-194, no. 6, pp. 1-8, 2016.
- コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエントロピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 131-136, 2016.
- メソッド名の長さ構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 137-142, 2016.
- オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp. 41-42, 2016.
- プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, no. 421, pp. 1-6, 2016.
- 共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価---ソースコード修正漏れの自動検出に向けて---, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp. 1-8, 2015.
- 開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 11 回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.
- オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 153, pp. 125-130, 2015.
- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 10 回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2014-SE-186, no. 3, pp. 1-8, 2014.
- オープンソース開発におけるソースコード変更予測に向けた成長曲線モデルの多段的利用について, 山下彰子・阿萬裕久, 情報処理学会ウインターワークショップ 2014・イン・大洗論文集, pp. 93-94, 2014.
- コメントの記述位置の違いに着目したフォールト潜在性の分析 ---メソッドの前に書かれるコメントとメソッドの中に書かれるコメント---, 阿萬裕久, 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2013 併設ワークショップ 「開発マネジメントにおける産学の問題共有と連携強化」 予稿集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルを用いたコードレビュー計画に対するフィルタリングの効果について, 井上慎也・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 159, SS2013-31, pp. 109-114, 2013.
- 小規模プログラムにおけるコメント行数とフォールト潜在性の関係に関する調査, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 24, SS2013-12, pp. 67-72, 2013.
- 0-1 計画モデルを利用したメソッド単位でのコードレビュー計画について, 井上慎也・阿萬裕久, ウインターワークショップ 2013・イン・那須論文集, pp. 27-28, 2013.
- 0-1 整数計画法を用いた不具合修正タスクの割当支援, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久, ウインターワークショップ 2013・イン・那須論文集, pp. 19-20, 2013.

2. 教育研究実績

○コメント記述量の増加傾向とフォールト潜在との関係に関する定量分析, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 112, No. 164, SS2012-28, pp. 109-114, 2012.

○Fault-prone モジュール予測に対するコメント記述量の効果に関する考察, 阿萬裕久, ウィンターワークショップ 2012・イン・琵琶湖論文集, pp. 45-46, 2012.

仲道 雅輝

原著論文

○「日本語リテラシー教育における高大接続-eラーニングの活用とその効果-」, 秋山英治・仲道雅輝・八木昌生・谷口浩一・松本浩司・三好徹明・光宗宏司, 日本リメディアル教育研究第11号第1巻, pp.1-12. 2016.

○「e-learning の全学的普及推進に向けた実践研究-効果的な普及方略に関する一考察-」, 仲道雅輝・佐藤慎一・根本淳子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明, 教育システム情報学会誌 Vol133, No3, pp. 149-154, 2016.

○「e-learning を活用した臨地実習の事前学習「周手術期看護:手術直後の患者の観察と対処方法」の取り組み」, 山下 奈緒子・福田 里砂・山脇 孝・仲道 雅輝・根本 淳子・都築 和宏・中村 勝, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 81-88, 2016.

○「eラーニングを活用した高大接続プログラム「日本語リテラシー」に対する生徒の意識と学習観」, 秋山英治・仲道雅輝・都築和宏・彦田純也・八木昌夫・谷口浩一・松本浩司・三好徹明・光宗宏司, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 97-104, 2016.

○「学生にとって初めてのフルオンライン型学習科目の履修動向と学習継続支援:実践からの一考察」, 根本淳子・吉田明恵・仲道雅輝・田中寿郎, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 75-80, 2016.

国際学会発表論文

○「A case study of university-wide effects of e-learning promotion activities」, Masaki Nakamichi, Junko NEMOTO, Toshihiro KITA, Hiroshi NAKANO, Katsuaki SUZUKI, A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), Kyoto University of foreign Studies, Kyoto, Japan, pp. 158-163. 2016.

○「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Masaki NAKAMICHI, Shinichi SATO, Hiroshi NAKANO, Katsuaki SUZUKI, A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), <http://icome.bnu.edu.cn/content/full-paper> (参照日 2013. 04. 01). 2012.

紀要・抄録・報告

○「高等教育における e-learning の普及方策-愛媛大学教育デザイン室の取り組み-」 仲道雅輝, 大学教育と情報 No4, 私立大学情報教育協会, pp. 31-34. 2017. 3

○「アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価」 加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光, 日本教育工学会研究会報告集 (香川大学), pp. 1-4. 2016. 3. 5

○「自立型人材の育成を目指した愛媛大学の取り組み」 仲道雅輝・都築和宏・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 大学 eラーニング協議会総会, pp. 34-35. 2016. 3. 17

○「eラーニングを活用した日本語教育システムの開発-平成24年度から平成27年度までの取組-」 秋山英治・仲道雅輝・仲本康一郎・山川広人・松浦年男・山下由美子・湯川治敏・中崎温子・二瓶由美子, 大学 eラーニング協議会総会, pp. 32-33. 2016. 3. 17

○「自律的な授業改善サイクルを促すための教員研究の改善と評価」 加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光, 日本教育工学会研究会 (大阪大学) 発表論文集, pp. 1-4. 2016. 5. 21

2. 教育研究実績

- 「プレイスメントテストの実施時間と出題順が解答率と正答率に及ぼす影響」 仲道雅輝・秋山英治・都築和宏 日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集（大阪国際大学），pp. 154-155. 2016. 8. 24
- 「日本語リテラシー教育は少人数でしかおこなえないのか」 秋山英治・仲道雅輝・都築和宏，日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集（大阪国際大学），pp. 114-115. 2016. 8. 25
- 「パリッシュの学習者要因に着目した授業改善ヒント集の開発」 仲道雅輝・根本淳子，初年次教育学会全国大会（四国大学）発表論文集，pp. 70-71. 2016. 9. 11
- 「高大接続でおこなう日本語リテラシー教育-eラーニングを活用した日本語リテラシー教育の有効性-」 秋山英治・仲道雅輝，初年次教育学会全国大会（四国大学）発表論文集，pp. 116-117. 2016. 9. 11
- 「Parrish の学習経験の質モデルの学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発」 仲道雅輝・根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・鈴木克明，日本教育工学会全国大会発表論文集（大阪大学），pp. 681-682. 2016. 9. 18
- 「高大接続で取り組む日本語リテラシー教育-高校生たちは、どのようにeラーニングに取り組み、どのように成長したのか-」 秋山英治・仲道雅輝・都築和宏・三好徹明，日本リメディアル教育学会東北支部研究会（桜の聖母短期大学），2016. 12. 3
- 「eラーニングを用いたブレンド型授業におけるTA・SAの活用と成果」，秋山英治・仲道雅輝，大学教育学会第37回大会発表要旨集録（長崎大学），pp. 120-121, 2015. 6. 7
- 「全学的なeラーニング普及推進の方策と成果」，仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明，大学教育学会第37回大会発表要旨集録（長崎大学），pp. 150-151, 2015. 6. 7
- 「初年次教育から専門教育への接続」，秋山英治・仲道雅輝，日本リメディアル教育学会全国大会（北星学園大学）発表論文集，pp. 64-65, 2015. 8. 29
- 「プレイスメントテストの実施が学ぶ姿勢の形成と主体性に及ぼす影響」，仲道雅輝・秋山英治・都築和宏，日本リメディアル教育学会全国大会（北星学園大学）発表論文集，pp. 150-151, 2015. 8. 29
- 「四国国立5大学における共通シラバスと履修プロセスの開発」，吉田明恵・仲道雅輝・根本淳子・田中寿郎・林敏浩・村井礼・金西計英・宮下晃一・立川明，教育システム情報学会全国大会（徳島大学）発表論文集，pp. 293-294, 2015. 9. 2
- 「高大連携におけるeラーニングの導入について」，秋山英治・仲道雅輝，初年次教育学会全国大会（明星大学）発表論文集，pp. 154-155, 2015. 9. 4
- 「新たな教員研修モデル開発のためのFDワークショップ実践報告」，加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光，日本教育工学会第31回全国大会（東京電気大学）発表論文集，pp. 173-174, 2015. 9. 21
- 「大学におけるe-Learning活用支援が授業改善に対する教員の認識に及ぼす影響-支援体制の充実に向けたアンケート結果から-」，仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明，日本教育工学会第31回全国大会（東京電気大学）発表論文集，pp. 601-602, 2015. 9. 22
- 「四国地区5国立大学連携におけるe-Learning教育を円滑運営するための著作権処理の提案」，村井礼・金西計英・高橋暁子・竹口幸志・田中寿郎・根本淳子・仲道雅輝・三好康夫・林敏浩，教育システム情報学会第40回全国大会（徳島大学）発表論文集，pp. 297-298, 2015. 9. 2
- 「非同期遠隔型オンライン学習における個別化された学習ポータルサイトの構築に関する検討」，高橋暁子・根本淳子・竹岡篤永・仲道雅輝，情報処理学会CLE研究会，研究報告コンピュータと教育（CE）. 2015-CE-132巻，36号，pp. 1-4, 2015. 12. 6
- 「症例ベースのeラーニング教材を使用した卒前・卒後共通シミュレーション医療教育プログラムの開発」，山脇孝・仲道雅輝・根本淳子・山下奈緒子・福田里沙・寺尾奈歩子・小西円，第7回日本医療教授システム学会総会（東京大学）ポスター発表P-A4，プログラム抄録集，pp. 61, 2015. 3. 5

2. 教育研究実績

- 「eラーニングにおける TA と SA の活用について」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学 eラーニング協議会合同フォーラム 2014 (創価大学) 発表論文集, pp. 15-16, 2015. 2. 21
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学 eラーニング協議会合同フォーラム 2013 (佐賀大学) 発表論文集, pp. 15-18, 2014. 3. 7
- 「大学での e-Learning 普及推進の取り組みによる効果」, 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明, 日本教育工学会第 30 回全国大会 (岐阜大学) 発表論文集, pp. 611-612, 2014. 9. 20
- 「教職協働を軸とした教育デザイン室の設置と運営」, 仲道雅輝・都築和宏・瀧本笑子, 大学行政管理学会大 18 回定期総会・研修集会 (東北学院大学) 発表論文集, pp. 129-130, 2014. 9. 7
- 「SDC 養成講座～その実践と検証～」, 清水栄子・仲道雅輝・吉田一恵・秦敬治・米澤慎二, 大学行政管理学会大 18 回定期総会・研修集会 (東北学院大学) 発表論文集, pp. 53-54, 2014. 9. 7
- 「学生の解答意欲を維持するプレイズメントテスト改善の試み」, 仲道雅輝・都築和宏・三神早耶・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディアル教育学会全国大会 (東京電機大学) 発表論文集, pp. 138-139, 2014. 8. 21
- 「初年次教育におけるブレンド型授業の実践とその成果～学生の属性に注目して～」, 秋山英治・仲道雅輝, 日本リメディアル教育学会全国大会 (東京電機大学) 発表論文集, pp. 118-119, 2014. 8. 22
- 「ブレンディッドラーニングによる日本語リテラシー教育の展開」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学教育学会第 36 回全国大会 (名古屋大学) 発表論文集, pp. 208-209, 2014. 6. 1
- 「SD の実践的指導者 (SDC) 養成プログラムの開発～大学教職員能力開発拠点の取り組みから～」, 阿部光伸・仲道雅輝, 大学教育学会第 36 回全国大会 (名古屋大学) 発表論文集, pp. 146-147, 2014. 6. 1
- 「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」, 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その, 大学教育学会第 35 回全国大会講演論文集, pp. 282-283, 2013.
- 「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」, 泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治, 大学教育学会第 35 回全国大会講演論文集, pp. 284-285, 2013.
- 「プレイズメントテスト実施方法に関する一考察」, 仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディアル教育学会第 9 回全国大会発表予稿集, pp. 6-7, 2013.
- 「教職員能力開発拠点の取組 - SD 講師・SD コーディネーター (SDC) の養成 (事例報告) -」米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子, 大学行政管理学会第 17 回定期総会・研究集会・資料集, pp. 9-50, 2013.
- 「大学間連携 SD を活用した次世代リーダー養成システム～SPOD - SD の事例から～」, 秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也, 大学行政管理学会第 17 回定期総会・研究集会・資料集, pp. 89-90, 2013.
- 「授業設計および教材作成支援による大学での e-learning 普及推進の取り組み」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集, pp. 805-806. P2a-1-404-07, 2013.
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治, 仲道雅輝, 大学 eラーニング協議会合同フォーラム予稿集, pp. 15-18, 2013.
- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Masaki Nakamichi. 熊本大学国際奨学事業報告書, pp. 159-160, 2013.
- 「大学教育の未来を支える eラーニングの可能性／愛媛大学の eラーニング推進の取組～教育デザイン室の設置～」仲道雅輝. [シンポジウム], 国立大学改革強化推進事業第 1 回シンポジウム, 四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業, 愛媛大学, 2013.
- 「国立大学法人における e-learning 推進の取り組み～私立大学での実践成果から～」, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, Vol. 2, No. 1, pp. 23-26, 2012.

2. 教育研究実績

- 「全学的な e-learning 普及施策を踏まえた教員の e-learning への意識変容に関わる研究～教員ヒアリング結果より～」, 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明, 日本教育メディア学会第 19 回年次大会講演論文集, pp. 55-56, 2012.
- 「パブリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育（新入生セミナー）の効果検証」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集, pp. 279-280, 2012.

佐々木 隆志

原著論文

- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp. 69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp. 111-125, 2015.
- 大規模 OSS 開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリアージ手法, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高, 情報処理学会論文誌, Vol. 56, No. 2, pp. 669-681, 2015.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No. 7, pp. 1213-1215, 2014.
- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・荻田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 10 回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2014-SE-186, no. 3, pp. 1-8, 2014.
- みんなでのおでんき PJ ～スマートメータシステムの実装～, 二宮政浩・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎, 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123 No. 3, pp. 1-8, 2013.
- みんなでのおでんき PJ ～ソーシャルコンセントの実装～, 松重雄大・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎, 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123, No. 2, pp. 1-6, 2013.

国際学会発表論文

- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp. 50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp. 3-4, 2015.

2. 教育研究実績

○Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol. 2, pp.51-56, 2014.

○Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.

○Multistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman • Akiko Yamashita • Takashi Sasaki • Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.

2. 教育研究実績

(2) 学会発表等

川原 稔

○オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について，山内一輝・阿萬裕久・川原稔，情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集，pp. 41-42，2016.

○プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用，加藤健太・阿萬裕久・川原稔，電子情報通信学会技術研究報告，vol. 115，no. 421，pp. 1-6，2016.

○共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価---ソースコード修正漏れの自動検出に向けて---，尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔，情報処理学会研究報告ソフトウェア工学，Vol. 2015-SE-190，No. 17，pp. 1-8，2015.

阿萬 裕久

○A Study of Fault-Prone Method Prediction with Distortions between Method's Name and its Implementation, Sho Suzuki・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Poster Session at IWESEP2017, 早稲田大学, 2017.

仲道 雅輝

○「アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価」加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦，望月雅光，日本教育工学会研究会報告集（香川大学），pp. 1-4. 2016. 3. 5

○「自立型人材の育成を目指した愛媛大学の取り組み」仲道雅輝・都築和宏・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎，大学 e ラーニング協議会総会，pp. 34-35. 2016. 3. 17

○「e ラーニングを活用した日本語教育システムの開発ー平成 24 年度から平成 27 年度までの取組ー」秋山英治・仲道雅輝・仲本康一郎・山川広人・松浦年男・山下由美子・湯川治敏・中崎温子・二瓶由美子，大学 e ラーニング協議会総会，pp. 32-33. 2016. 3. 17

○「自律的な授業改善サイクルを促すための教員研究の改善と評価」加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光，日本教育工学会研究会（大阪大学）発表論文集，pp. 1-4. 2016. 5. 21

○「プレースメントテストの実施時間と出題順が解答率と正答率に及ぼす影響」仲道雅輝・秋山英治・都築和宏，日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集（大阪国際大学），pp. 154-155. 2016. 8. 24

○「日本語リテラシー教育は少数でしかおこなえないのか」秋山英治・仲道雅輝・都築和宏，日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集（大阪国際大学），pp. 114-115. 2016. 8. 25

○「パリッシュの学習者要因に着目した授業改善ヒント集の開発」仲道雅輝・根本淳子，初年次教育学会全国大会（四国大学）発表論文集，pp. 70-71. 2016. 9. 11

○「高大接続でおこなう日本語リテラシー教育ーe ラーニングを活用した日本語リテラシー教育の有効性ー」秋山英治・仲道雅輝，初年次教育学会全国大会（四国大学）発表論文集，pp. 116-117. 2016. 9. 11

○「Parrish の学習経験の質モデルの学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発」仲道雅輝・根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・鈴木克明，日本教育工学会全国大会発表論文集（大阪大学），pp. 681-682. 2016. 9. 18

○「高大接続で取り組む日本語リテラシー教育-高校生たちは、どのように e ラーニングに取り組み、どのように成長したのか-」秋山英治・仲道雅輝・都築和宏・三好徹明，日本リメディアル教育学会東北支部研究会（桜の聖母短期大学），2016. 12. 3

3. 教育活動及び教育支援

(1) 教育活動

【講義】

中川 祐治

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2016 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 142 名, 共通基礎教育科目, 理学部

2016 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 243 名, 共通基礎教育科目, 理学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2016 年度後期, 数学セミナーⅡ, 2 名, 専門教育科目, 理学部

2016 年度後期, 情報数理学Ⅱ, 17 名, 専門教育科目, 理学部

2016 年度後期, 情報数理学続論, 2 名, 専門教育科目, 理学部

2016 年度後期, 環境 ESD 指導者養成講座 I, 26 名, 共通発展科目, 全学部

2016 年度後期, 応用数学, 5 名, 専門教育科目, 修士

野口 一人

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2016 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 中級, 148 名, 共通基礎教育科目, 農学部

2016 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 初級, 52 名, 共通基礎教育科目, 工学部

2016 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 196 名, 共通基礎教育科目, 農学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2016 年度前期, 情報ネットワーク, 112 名, 専門教育科目, 工学部

2016 年度前期, 情報ネットワーク, 15 名, 専門教育科目, 教育学部

2016 年度 Q2, ネットワークシステム特論 I, 7 名, 修士

2016 年度 Q3, ネットワークシステム特論 II, 7 名, 修士

2016 年度 Q1, 身体運動学, 22 名, 社会共創学部

2016 年度後期, フィールド基礎実習, 25 名, 社会共創学部

川原 稔

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2016 年度後期, 情報基盤システム特論, 11 名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

阿萬 裕久

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2016 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 176 名, 共通基礎教育科目, 教育学部

2016 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 280 名, 共通基礎教育科目, 教育学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2016 年度前期, ソフトウェア工学, 97 名, 専門教育科目, 工学部

2016 年度後期, 情報基盤システム特論, 11 名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

2016 年度後期, プログラミング言語 I, 87 名, 専門教育科目, 工学部

2016 年度後期, プログラミング言語 I 演習, 86 名, 専門教育科目, 工学部

3. 教育活動及び教育支援

仲道 雅輝

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2016 年度前期, 新入生セミナー, 120 名, 初年次科目, 共通教育 (法文学部・夜間主)

2016 年度前期, 新入生セミナー, 300 名, 初年次科目, 共通教育 (法文学部・昼間主)

2016 年度前期, 新入生セミナー, 160 名, 初年次科目, 共通教育 (教育学部)

2016 年度前期集中, 愛媛大学リーダーズ・スクール, 20 名, 発展科目, 共通教育

2016 年度後期集中, 愛媛大学リーダーズ・スクール, 20 名, 発展科目, 共通教育

2016 年度第 3Q, 倫理と思想を考える (ライフマネジメントとセルフリーダーシップ), 50 名, 主題探求科目, 共通教育

2016 年度第 4Q, 倫理と思想を考える (ライフマネジメントとセルフリーダーシップ), 50 名, 主題探求科目, 共通教育

2016 年度集中, グローバル・リーダーシップ I, 共通教育 (全学部対象)

2016 年度集中, グローバル・リーダーシップ II, 共通教育 (全学部対象)

佐々木 隆志

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2016 年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 40 名, 共通基礎教育科目, 法文学部

2016 年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 90 名, 共通基礎教育科目, 法文学部

【論文指導】

野口 一人

2016 年度 卒業論文指導 学生数 2 名

川原 稔

2016 年度 卒業論文指導 学生数 5 名

阿萬 裕久

2016 年度 卒業論文指導 学生数 3 名

【論文審査】

中川 祐治

2016 年度 修士論文審査数 (副主査) 2 名

野口 一人

2016 年度 修士論文審査数 (副主査) 5 名

2016 年度 博士論文審査数 (副主査) 2 名

3. 教育活動及び教育支援

川原 稔

2016年度 修士論文審査数（副主査）2名

阿萬 裕久

2016年度 修士論文審査数（副主査）2名

3. 教育活動及び教育支援

(2) 教育支援

【授業改善】

○教育デザイン室の設置による授業設計支援

愛媛大学における e-learning を活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要として「教育デザイン室」（インストラクショナル・デザイン・オフィス）を設置し、ICT を活用した授業設計を支援する体制を整備・拡充を行い、安定的な運用を行っている。

教育デザイン室は、科目担当者の個別の授業改善を支援するほか、学部の教育改革に伴うカリキュラム改善に関わる支援など、ICT を活用した教育方法の提案を行っている。各授業では、科目担当教員は、日々の授業や業務の合間の時間を活用して授業設計の改善に取り組むことができるよう、専属の担当者がインストラクショナル・デザイン（教育設計）手法を用いた個別的支援を行っている。また、授業設計やカリキュラム設計、フィールドワークと対面授業の効果的な授業設計、e-learning と対面授業の効果的な授業設計等についても支援している。

○授業コンサルテーション, 2016 年 2 件

○カリキュラムコンサルテーション, 2016 年 学外 1 件（高知学園短期大学/計 6 回）

○授業参観対応, 2016 年 1 件

○FD 研修会講師

- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」（学内 1 回），教育・学生支援機構, 2016 年 12 月
- ・「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用」（学内 1 回, 学外 1 回）愛媛大学 2016 年 9 月, 山口県立大学 2016 年 9 月
- ・「アクティブラーニングのための授業設計ワークショップ」学外 4 回, 創価大学, 2016 年 9 月 2 回, 2017 年 3 月 2 回
- ・「授業デザインワークショップ（2 回）」, 教育・学生支援機構, 2016 年 7 月, 9 月
- ・「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS 動機付けモデルの活用～（学内 1 回）」, SPOD, 愛媛大学 2016 年 9 月
- ・「e-learning 入門～Moodle ソフトを使ってきめ細やかな学習支援を実現しよう～」, 教育・学生支援機構, 2016 年 9 月
- ・「効果的な e ラーニングの活用方法」, （学内 1 回, 学外 1 回）教育・学生支援機構, 2016 年 9 月, 香川県立保健医療大学, 2016 年 8 月
- ・「インストラクショナル・デザインによる授業設計」シリーズ 6 回 高知学園短期大学, 2016 年 2 月～8 月

【サークル等活動指導】

中川 祐治

○キリスト者学生会（KGK）顧問

仲道 雅輝

○SCV メディアサポーターズ映像部顧問

4. 研究活動

(1) 研究成果

中川 祐治

○モバイル端末で動作する受講者観察システムの設計

学習者が文章を読む際に発生する眼球運動の一種であるSaccade（一秒間に3回、一回あたり約30ミリ秒）に着目し、各種実験を行ったところ、学習に集中している時はSaccadeが観測され、集中度が低下するとSaccadeが観測されないという事実を2003年に確認した。そこで、これまでに学習時の眼球運動を画像解析により取得し、Saccadeの有無により学習への集中度を測定する『受講者観察システム』の実用化研究を行ってきた。

このシステムでは、眼球運動検出に関わる高度な画像処理を学習者のPCで行う必要があり、計算量を極限まで削減したアルゴリズムが求められこれを実現した。しかし、Saccade現象が左右同時に発生するのは希（15%）で、片眼だけで発生する場合（71%）や、ずれて発生する場合（14%）が見つかり、両眼での測定が必須であることが分かってきた。このシステムでは受講者の眼球運動が30ミリ秒で起こるため、その測定を高度な画像解析により1秒間に30回（ビデオレート）繰り返す必要がある。したがって、一回の計算を33ミリ秒以内で終えねばならない。これまでに、これを実現する高速アルゴリズムを開発してきたが、両眼での測定を行うには2倍の計算量が必要となり高速性が要求される。さらに、公園や電車内のような動的な環境での学習に耐え得るようなロバスト性を兼ね備える必要もある。これまでに開発してきたシステムでは、全方向微分フィルタにより黒目の検出を行っていたが、円弧エッジ抽出フィルタを開発する事で計算時間を大幅に削減できる。これにより高速化が図られ両眼のSaccade検出が可能となる。また、両眼での検出が可能となることから検出効率が格段に向上し、環境の変化に影響されないロバストなシステムを構築することができる。

○オープンデータ学びの場の創出

2016年10月12日に松山市はオープンデータを公開した。その量と質は、今後、市民・社会のニーズに合わせ、充実させていく必要があると考えられ、Code for DOGOも松山市と議論を重ねてきた。チャレンジオープンガバナンス2016での松山市の課題が公開されたのち、オープンデータの利用促進を図るための産官学での役割分担や在り方を議論し、公開されたデータを活用する上で、それぞれが単独で取り組むのではなく、連携しながら進めることが重要であると結論に達した。松山市が公開した課題を、学生・市民として検討する場として、12月17日に学生約30名でアイデアソンを実施した。その中で様々な意見が出されたが、この課題に対して考える場自体こそが重要と考えられ、その場を構成する要員は多様な人であることが必要であると考えた。今後、大学のリソースを活用したオープンな学びの場を構築し、Code for DOGOが展開するオープンデータを中心としたセミナー等を広く一般に公開し、学生をはじめとした地域住民の参加を促す仕組みが必要である。現在、Code for DOGOのメンバー構成は、愛媛大学、松山大学の教員が中心となっている。Code for DOGOのイベントや定例会（勉強会）は、教員の呼びかけによりゼミ生を中心とした学生が参加し、2015年2月のキックオフ以来、月一回のペースで定期的開催されている。この月一回の勉強会をよりオープンなものとし、ゼミ生以外の学生や課題解決型NPOのメンバー、さらには自治体職員も巻き込み、多様なメンバーで意見交換を行うことにより、課題解決のヒントを生み出す場となりうる。Code for DOGOのミッションの一つは、大学教育を通じ、学生に対し地域貢献できる人材に育ててもらうことである。地方大学における地域との関わりは、少子高齢化が進む中でますます重要になると考えられる。

4. 研究活動

野口 一人

○ 光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム (LiNbO_3) は、優れた電気光学特性、音響光学特性、非線形光学特性を有しており、光通信システムにおける光変調器、TV や携帯電話における中間周波数 (IF) フィルタ、小型振動子、光ジャイロなど様々な分野で使用されている。光通信の分野では、光源である半導体レーザの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み、今日のネットワーク社会を支えるキーデバイスの一つである。高精細動画サービスの普及により、大容量化・低消費電力化を目指した研究開発が進められている。

現在、光変調器のさらなる高性能化を図るため、小型化が有望な材料を用いたシリコンフォトニクス、低駆動電圧化が有望な電気光学 (EO) ポリマなど、他の材料系のデバイス設計に取り組んでいる。卒論指導を通じて有限要素法による解析プログラムの作成及びデバイスシミュレーションを進めている。

一例として、EO ポリマ-Si 導波路ハイブリッド導波路における、光電界分布の計算結果を図 1 に示す。図では電界強度を等高線表示している。今回、セミベクトル解析を採用したことにより、より詳細な解析が可能になった。Si 導波路は屈折率が 3 以上であり、EO ポリマの屈折率 (1.7) と比べて屈折率差が大きい。その結果、図中で拡大して示しているように、コアとクラッドの境界で電界の乱れが発生していることをシミュレーションできた。これは、今回、セミベクトル解析の採用により、屈折率差が大きい境界の詳細な解析が可能になったためである。

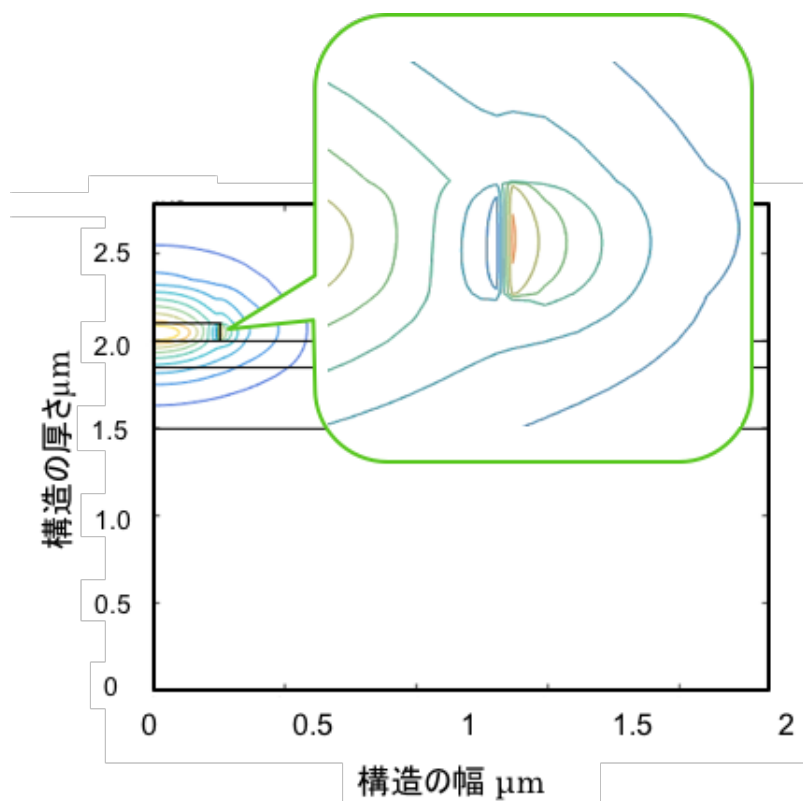


図 1. EO ポリマ-Si ハイブリッド光導波路における電界分布 (等高線表示)

4. 研究活動

○ 遠隔医療教育に関する研究

ICTの高度利用と地域貢献のため、東北大学の専門医、九州大学病院アジア遠隔医療センター、愛媛中央病院の医師らと協力して胎児心エコーの遠隔医療教育に関する研究を進めている。平成29年2月4日、5日の2日間、東京都千代田区の国立情報学研究所講堂で開催された第59回神奈川胎児エコー研究会アドバンス講座を全国の大学に中継し、遠隔セミナーを実施した。愛媛県においては、愛媛大学メディアホールまで遠隔中継し、愛媛県内及び近隣の産婦人科医・超音波技師に受講環境を提供した。

図2に接続構成図を示す。慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス藤原ホールを主会場とし、会場で実施される専門医のセミナー映像を、ビデオ会議システムとSINET5を使って九州大学病院アジア遠隔医療センター(TEMDEC)に送信する。遠隔会場である北海道大学、旭川医科大学、岩手医科大学、弘前大学、東北大学、筑波大学、名古屋大学、滋賀医科大学、浜松医科大学、岡山大学、京都大学、愛媛大学、徳島大学、広島大学、山口大学、九州大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、も同様にSINET5経由でアジア遠隔医療センターに接続している。アジア遠隔医療センターでは映像を集約・編集し、セミナーの内容を全国に中継した。参加者は東京会場で約300人、遠隔会場を合わせて約200人であった。

また、H.323のシステムのバックアップとして、Web会議システムによるストリーム配信も並行して実施した。こちらは、商用インターネット回線を通じて、手元の端末で視聴可能とした。

愛媛大学では、メディアホール備付けのビデオ会議端末を用いて信号を受信し、医療映像を備え付けのプロジェクトに投影した。丸2日間にわたり、愛媛県立中央病院など愛媛県内の病院やクリニックから産科医・超音波技師が参加し、胎児心エコーに関する基礎的な診断技術を受講した。

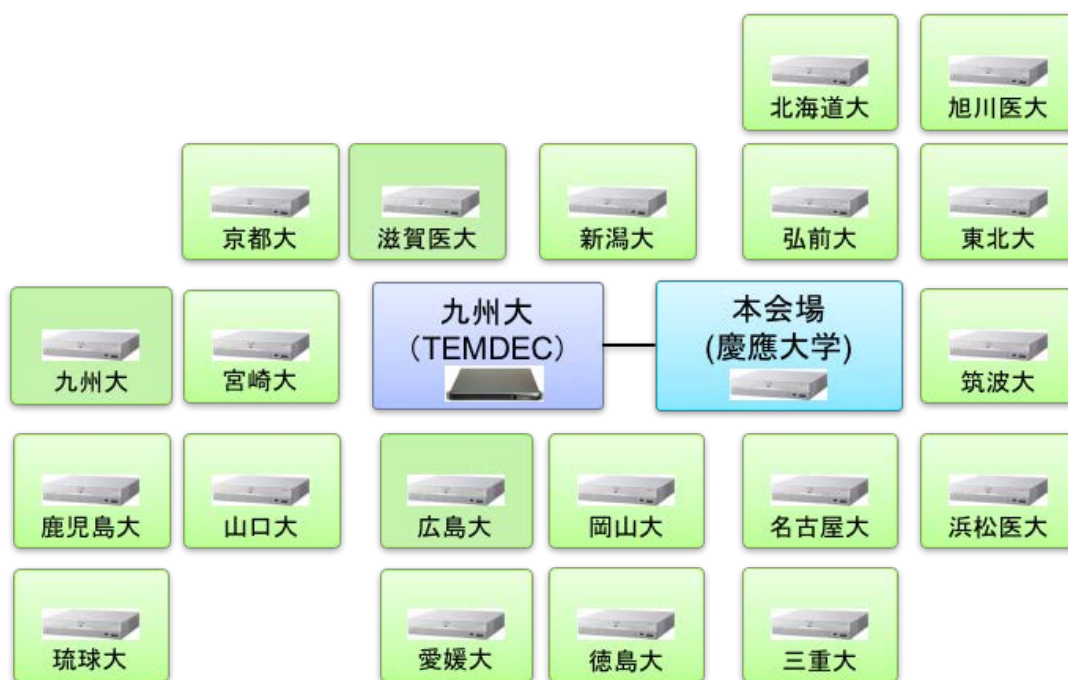


図2. 遠隔講義の全国配信システム

4. 研究活動

川原 稔

○視線誘導型視野計測手法に関する研究

視野の把握は、緑内障や網膜変性症などの疾患を早期発見・早期対処するために重要な役割を果たす。現存する視野計測法では、視線を固視して計測を行う必要があり、被験者にとって負担が大きいものである。本研究では、視野計測を行うための視標を目で追って視線を自由に動かすことができる計測法を発明し、被験者が反応する時間計測に基づいて視野暗点を検出することができるようになった。さらに、一般的に視力計測で用いられるランドルト環に対して、視覚の分解能を正確に計測する視標も開発することができた。本件は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受けて、特許協力条約（PCT: Patent Cooperation Treaty）に基づき国際出願番号 PCT/JP2016/072647「視野計測方法、視野計測装置及び視力検査視標」として国際出願を行った。

○労働安全衛生に関する研究

身体の疲労が労働安全衛生にかかわる重大な事故等につながることは社会的に認知されていることである。本研究では、疲労の定量化を視作業の計測に基づいて行うことを試みている。眼精疲労を計測する従来からの手法であるフリッカーテスト計測法に改良を加えて、特殊な点滅パターンを用いることで疲労の計測が安定して行えることを発見した。

○オペレーションズリサーチ研究

地域にある商業的な問題を解決するためにオペレーションズリサーチの手法を用いて解決を行っている。本年度はオペレーションズリサーチに関する企業との共同研究を2件行った。一件は、住宅リノベーションを効率的に行うために、住宅の間取りを類似検索するデータ構造及びアルゴリズムを構築し、データの蓄積及び類似検索を行えるシステムの開発を行った。もう一件は、運送を効率的に行うために、積荷をトラックに最適配置する数理モデルを構築して自動配車システムを開発しているところである。

阿萬 裕久

○データ解析に基づいたソフトウェア品質評価・予測に関する研究

ソフトウェアの品質はその開発に携わる技術者の経験や力量に依存しやすく、個体差が大きい。そのため個々の案件だけでなく、統計的なデータ解析の観点からソフトウェアの品質を評価・予測することが重要であり、90年代後半からこのテーマに取り組んでいる。現在は特に、プログラマがプログラムの中に書き込むコメント文の品質に対する影響に着目しており、科学研究費補助金・基盤研究(C)の研究代表者として個人差の出やすい特徴の品質への影響について研究を行っている。あわせて、プログラムの書き方に関する規約違反を切り口とした研究も行っている。平成28年度はこのテーマでの成果発表を8件（国際会議4件を含む）行い、他大学の研究者からは良好な反応が得られている。

○効率的なソフトウェアレビュー及びテストの実践に関する研究

一般にソフトウェアの正しさは、その内容確認と動作確認によって保証される。前者はレビューと呼ばれ、多くの場合は複数の技術者がドキュメントやプログラムの内容を目視によって確認する作業となる。後者はテストと呼ばれ、実際にソフトウェアが正しく動作するかどうかを確認する作業となる。いずれも重要な作業であるが、工数（人手と時間）を多く必要とするところが現場では大きな問題となっている。

4. 研究活動

この問題を解決すべく、平成 22 年からレビュー及びテストの計画に数理計画モデルを応用する手法を提案し、その効果について研究を行っている。平成 24 年からは東芝とテストの効率化について共同研究を行っており、平成 28 年度には成果発表を 2 件（いずれも国際会議論文）行った。

○オープンソース開発プロジェクトに関する研究

近年、Linux に代表されるようにオープンソースソフトウェアが広く使われるようになってきた。オープンソースソフトウェアはリポジトリと呼ばれるシステムを介してソースコードそのものがすべて公開されており、その追加や修正もリポジトリで容易に確認できる。しかしながら、単にリポジトリにアクセスするだけでは、現時点での開発状況を把握したり、今後の開発の進展を予測したりするのは容易ではない。そこでリポジトリ上での開発データを様々な切り口から解析し、状況の把握と予測を行う研究を進めている。平成 28 年度には成果発表を 3 件（国際会議 1 件を含む）行った。

仲道 雅輝

○高等教育機関における全学的な e-learning 推進に関わる研究

本研究は、高等教育機関での e-learning の全学的普及に効果的な方策を見出し、今後の普及活動への示唆を得ることを目的としている。実践過程の仕掛けの紹介とともに、実践過程を振り返り、e-learning の全学的な普及に向けて大学全体を巻き込んでいくための方策について、教員アンケートや導入段階から普及・定着の過程をまとめ考察している。結果、教員の e-learning コンテンツ制作数の増加につながり、これらから ICT 活用による授業展開方法の周知等の e-learning 普及に対する促進効果が示唆された。さらに具体的な e-learning を活用した授業展開や成果に関する研究について、論文誌に掲載されている（5 本：教育システム情報学会、日本教育工学会、日本リメディアル教育学会、愛媛大学大学教育実践ジャーナル）

研究報告としては、国内学会（日本教育工学会：6 本、教育システム情報学会：6 本、日本教育メディア学会：1 本、大学 e ラーニング協議会合同フォーラム：3 本、日本リメディアル教育学会 2 本、日本医療教授システム学会：2 本、情報処理学会：1 本）で発表している。

また、対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援の取り組みをまとめたものが、論文誌に 2 件採録された（愛媛大学教育実践ジャーナル第 12 号、第 13 号）。

全学的な e-learning 推進に関わる学内マネジメントの重要性を含め、普及要因を普遍化し、教員への半構造化インタビューを通して、普及方略の妥当性を検証した研究成果を、国際会議で発表した。（ICOME：2 本）

○FD・SD 活動の普及要因に関わる研究

アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価に関する研究を進めている。具体的には、授業改善ワークショップを企画・実施し、参加者の授業シラバスをもとに授業改善の検討を行う実践中心のプログラムを実施している。実施後のアンケート結果や最終成果物から効果検証を行い、傾向や検証結果について発表を行った。（日本教育工学会：3 本）

スタッフディベロップメントの実践的研究として、SDC 養成プログラムの開発や実践結果からの検証結果について、研究発表を行っている。（大学行政管理学会：8 本）

○学生能力開発における成長過程に関わる研究

4. 研究活動

初年次教育や学生リーダーシップ教育に関わって、学習経験の質に関する研究を進めている。

学習経験の質に関する研究では、実践対象校で初年次教育科目として開講している新入生セミナーを通じて、学習者の学ぶ姿勢を育成しているかどうかの効果検証及び調査項目の提案を行っている。その基礎となる調査項目の着眼点をパリッシュの「学習経験の要因モデル」の学習経験のレベルを左右する要因から探っていく。具体的には、学習状況に関わる要因と学習者個人に関わる要因があり、これらの要因によって、学習経験の質が変化すると捉えている。その中で、「学習者個人に関わる4要因」を基盤に調査項目を立案・調査・実施した結果を報告している。平成27年度文部科学省・科学研究費助成事業・基盤研究(C)に採択され、「学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発と評価ー初年次教育での学ぶ姿勢の育成」(研究代表者)研究を進めている。

本研究は、パリッシュの「学習経験の要因モデル」にある「学習者要因」に焦点をあて、その支援方略を明らかにし、「学習経験自己評価表」を用いることで、望ましい学習姿勢を身につけ、学習効果が向上することを目指す。また、教員が学習経験を高める授業改善に使える「授業改善ヒント集」も作成し、授業改善を支援することを目的としている。平成28年度は、「授業改善ヒント集」及び「学習経験自己評価表」の一次案をもとに、分析を加え発表を行った。(初年次教育学会:1本, 日本教育工学会:1本) 今後、授業実践で適用し、妥当な評価表となるよう分析を進める。また、今後のデータ追加と再分析の方法を検討し研究成果の公開を進めていく。

5. 業務関連

(1) 沿革

- 昭和 41 年 3 月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
- 昭和 50 年 2 月 愛媛大学計算機室に名称変更
- 昭和 50 年 3 月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
- 昭和 57 年 7 月 情報処理センター発足
- 昭和 57 年 11 月 情報処理センター建物完成（835.3 平方メートル）
- 昭和 58 年 2 月 FACOM M180IIAD システム（主記憶：12MB）導入
- 昭和 58 年 3 月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
- 昭和 60 年 3 月 DDX 加入
- 昭和 61 年 11 月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
- 昭和 62 年 4 月 FACOM M360AP システムに更新
- 平成 2 年 1 月 学術情報センターノード運用開始，DDX 解除
- 平成 2 年 10 月 JUNET 電子メールサービスの開始
- 平成 3 年 2 月 FACOM M770/6 システム（主記憶：64MB）導入
- 平成 4 年 2 月 JAIT に接続
- 平成 5 年 4 月 総合情報処理センター発足
- 平成 5 年 12 月 SINET ノード設置
- 平成 6 年 2 月 FACOM M1600/6 システム（主記憶:128MB）,CONVEX C3440CT システム導入
- 平成 6 年 3 月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
- 平成 9 年 11 月 ATMネットワークシステムの構築
- 平成 10 年 2 月 S-7/7000U モデル 500, FACOM M1600/6 システム導入
- 平成 12 年 2 月 総合情報処理センター建物完成（1871 平方メートル）
- 平成 13 年 3 月 学内ギガネットワークシステムの構築
- 平成 14 年 2 月 PRIMPOWER 600, パソコンシステム導入
- 平成 15 年 4 月 総合情報メディアセンター発足
- 平成 15 年 9 月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
- 平成 18 年 2 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 19 年 6 月 SINET3 本格運用
- 平成 22 年 3 月 構内光ケーブル張替
- 平成 22 年 10 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 23 年 3 月 SINET4 運用
- 平成 23 年 4 月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更
- 平成 26 年 9 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 28 年 2 月 SINET5 運用

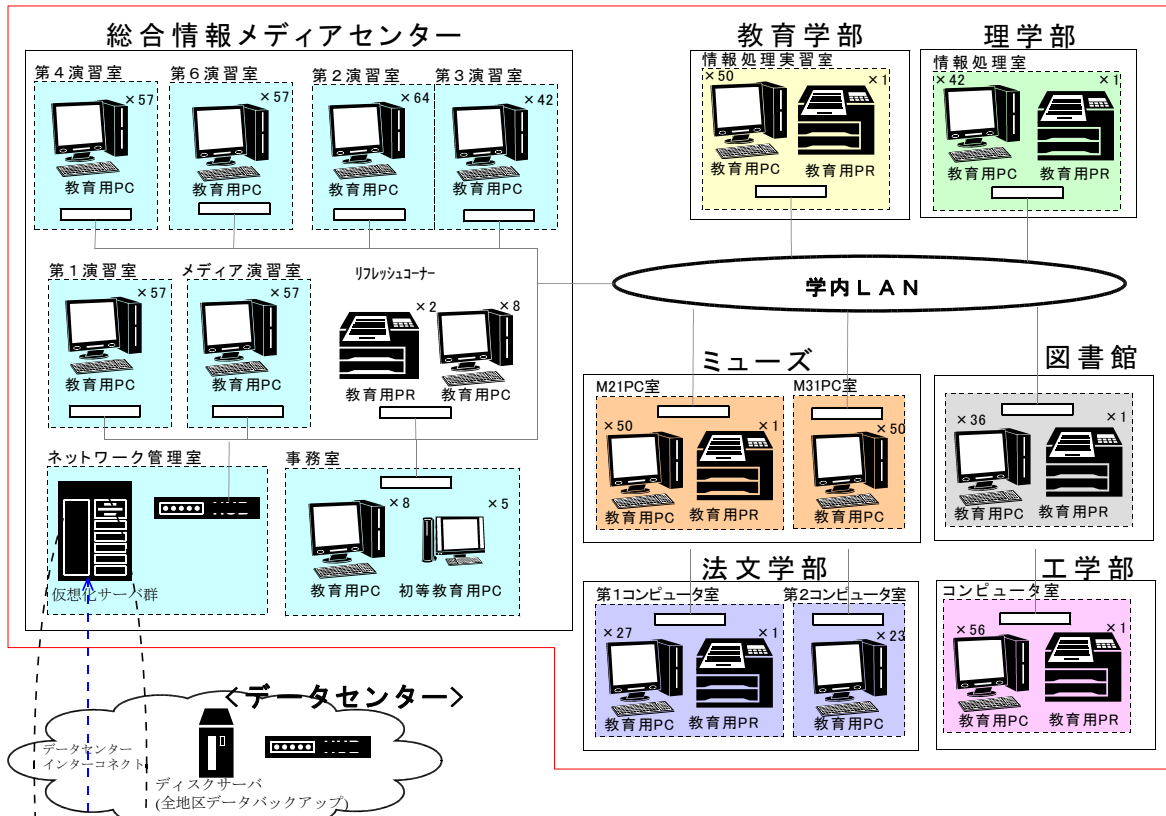
5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

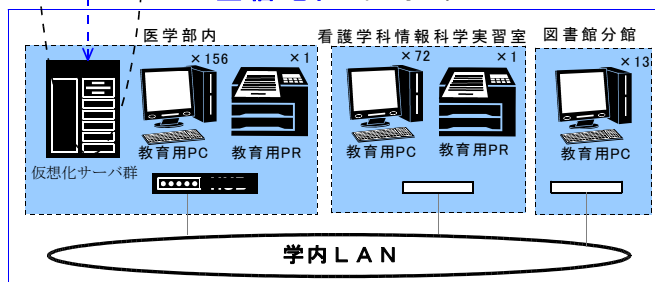
○システム構成概念

平成 28 年度のシステム概念は次のとおりです。

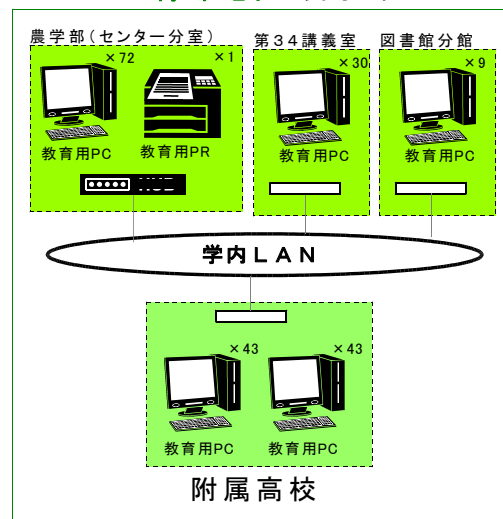
<城北地区>



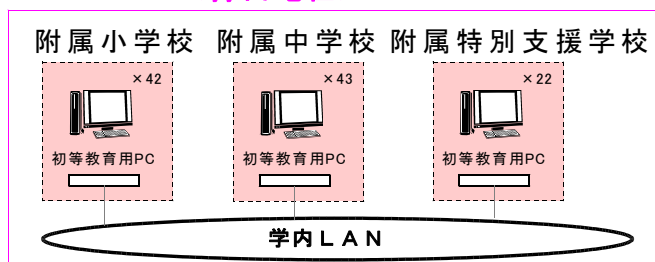
<重信地区>医学部



<樽味地区>農学部



<持田地区>



5. 業務関連

○ソフトウェア一覧

平成 28 年度の各演習室で使用可能なソフトウェアは次のとおりです。

■教育PC用イメージパターン

No	ソフトウェア名	区分	申請 部署	ソフトウェア ライセンス	イメージパターン							
					城北共通 (農学部を含む)	城北 工学部	医学部① 総合教育棟2F	医学部② それ以外	附属高校	小学校	中学校	特別支援 学校
1	7-Zip(ファイル圧縮ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
2	AdobeReaderDC(PDF閲覧用ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
3	Chrome(Webブラウザ)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
4	Cygwin(Unix環境)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
5	Eclipse(統合開発環境)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
6	FireFox(Webブラウザ)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
7	Flash Player(ブラウザプラグイン)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
8	GIMP(ペイントソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
9	GoogleEarth(バーチャル地球儀ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
10	JDK(Java開発ツール)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
11	Lhaplus(ファイル圧縮ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
12	Microsoft Office Professional 2016 (ワープロソフト、表計算ソフト等)	*		■	●	●	●	●	●	●	●	●
13	Primo PDF(PDF 作成/変換ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
14	QuickTime(動画再生ソフト)	*			-	-	-	-	-	-	-	-
15	RealPlayer(動画再生ソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
16	Microsoft Windows Visual Studio 2015 (統合開発環境)	*		■	●	●	●	●	●	●	●	●
17	一太郎ビューア(一太郎ビューアソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
18	サクラエディタ(テキストエディタ)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
19	花子ビューア(花子ビューアソフト)	*			●	●	●	●	●	●	●	●
20	Accelrys Draw(化学構造式作成ソフト)		工		●	●	●	●	●	●	●	●
21	Android Studio(Android開発環境)		他		●	●	●	●	●	●	●	●
22	AutoCad2015(CADソフト)		工	■	●	●	●	●	●	●	●	●
23	CBT(医学部試験実施ソフト)		医	■	●	●	●	●	●	●	●	●
24	Chem Sketch(化学構造式描画ソフト)		工		●	●	●	●	●	●	●	●
25	Gaussian(計算化学用ソフト)		工	■	●	●	●	●	●	●	●	●
26	GaussView(グラフィカル・インターフェース)		工	■	●	●	●	●	●	●	●	●
27	Inkscape(高機能ドローソフト)		工		●	●	●	●	●	●	●	●
28	Jw_cad(2次元汎用CADソフト)		農		●	●	●	●	●	●	●	●
29	MANDARA(地理情報分析支援システム)		教		●	●	●	●	●	●	●	●
30	NDPビューア(ビューアソフト)		医	■	●	●	●	●	●	●	●	●
31	SAS Analytics pro(統計解析ソフト)		医	■	●	●	●	●	●	●	●	●
32	SolidWorks(3次元CAD設計ソフト)		工	■	●	●	●	●	●	●	●	●
33	SPSS(統計解析ソフト)		医	■	●	●	●	●	●	●	●	●
34	Tera Term(ターミナルエミュレータ)		工		●	●	●	●	●	●	●	●
35	Texworks(TeX統合環境プログラム)		他		●	●	●	●	●	●	●	●
36	Thunderbird(メールクライアントソフト)		工		●	●	●	●	●	●	●	●
37	VirtualBox(仮想化PC作成・実行ソフト)		他		●	●	●	●	●	●	●	●
38	VODBOX(Internet Explorer用アドオン)		医		●	●	●	●	●	●	●	●
39	wGNUPLoT(グラフ作成ソフト)		教		●	●	●	●	●	●	●	●
40	Windowsムービーメーカー (ビデオ製作・編集ソフト)		他		●	●	●	●	●	●	●	●
41	環境変数(OSが提供するデータ共有機能)		教		●	●	●	●	●	●	●	●
42	統計解析言語 R(統計解析ソフト)		法		●	●	●	●	●	●	●	●
43	R Studio(統計解析言語R用の統合開発環境)		法		●	●	●	●	●	●	●	●
44	Arduino(Arduino言語用の統合開発環境)		他									
45	LIFE with PhotoCinema3(フォトムービー作成ソフト)		他	■								
46	SCRATCH(プログラミング言語)		他						●			
47	XmediaRecode(動画一括変換ソフト)		他							●		
48	がくげいランドセル小学1~6年(統合学習ソフト)		他	■					●			
49	ジャストスマイル5(学習・授業支援ソフト)		他	■					●			
50	一太郎(日本語ワープロソフト)		他	■								●
51	バーコードフォント(CODE39、CODE128) (フォント)		他								●	
52	SKYMENU(授業支援・学習活動支援ソフトウェア)		他	■					●	●	●	

-注意事項等-

QuickTimeには、脆弱性があるため、脆弱性の対策が行われるまで、利用を停止しております。

SolidWorksについて、農学部には設置している端末へインストールしておりますが、運用の都合上、農学部の端末では、使用できない設定となっております。

教育用PCの空きディスク容量の都合上、今後のソフトウェアインストール申請について、お断りさせていただく場合がございます。

5. 業務関連

○ネットワーク概念

平成 28 年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

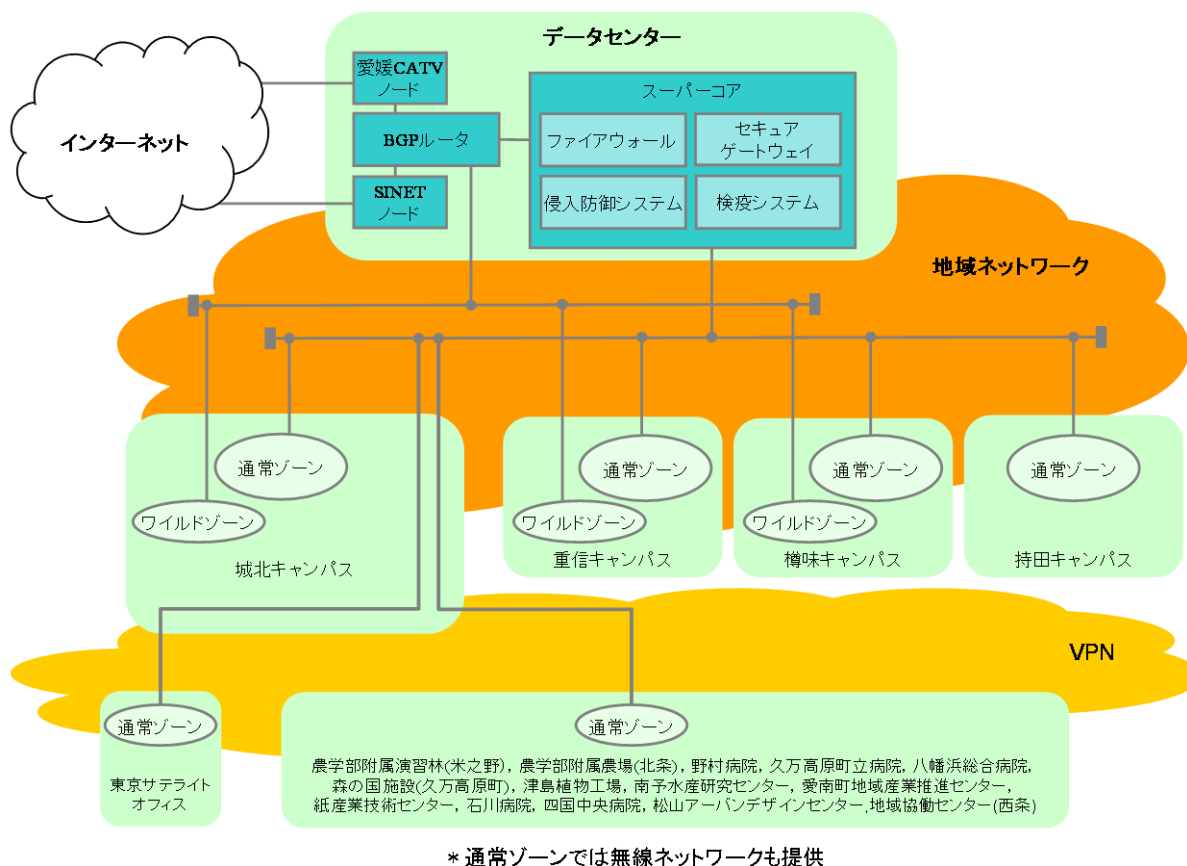


図 ネットワーク概念

(3) 事業実績

○セキュリティ関連

- ・ CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)設置 (7月)

CSIRT(情報セキュリティ対策チーム (Computer Security Incident Response Team)) の設置が承認された。

- ・ 情報セキュリティ教育及び確認テスト(7月)

教職員の情報セキュリティに関する意識向上のための情報セキュリティ教育及び確認テストを、eラーニングにより実施した。

- ・ セキュリティ脆弱性検査実施 (11月から随時)

学内の申請サーバについてセキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見された利用者には通知を行い、対策を依頼した。

- ・ 愛媛大学情報セキュリティ対策ガイドラインの配布(12月)

12月14日に全職員に情報セキュリティ委員会において了承された「愛媛大学情報セキュリティ対策ガイドライン」を配布した。

5. 業務関連

- ・ IP アドレス確認(1月)

全学に割り当てられているグローバルアドレスの確認を行った。

○ネットワーク関連

- ・ 農学部附属農場を VPN(光)接続に変更(2月)

(4) 利用状況

平成 28 年度のセンター利用状況は次のとおりです。

○情報基盤システム

センターメール及び LMS 利用アカウントは、全学アカウントを持つ教職員及び学生以外の方が対象です。

申請種別	登録数
センターメール	28 件
セキュアゲートウェイ	322 件
ホスティング (OS)	45 件
ホスティング (Web)	77 件
LMS利用アカウント	45 件
LMS利用 (コース登録)	1,231 件

○夜間開放・休日開放

夜間開放は、毎週月～金の 17:00～21:00、休日開放(2007年9月から実施)は、10:00～17:00 に第 1 演習室を開放しています。(ただし、夏季休暇及び冬季休暇中は除く)

	夜間開放利用者数	休日開放利用者数
2016年 4月	197人	65人
2016年 5月	747人	216人
2016年 6月	593人	150人
2016年 7月	680人	296人
2016年 8月	183人	22人
2016年 9月	55人	31人
2016年10月	434人	112人
2016年11月	570人	218人
2016年12月	505人	82人
2017年 1月	568人	153人
2017年 2月	385人	62人
2017年 3月	---	---

5. 業務関連

○メディアホール

年月	利用件数	年月	利用件数
2016年 4月	6	2016年10月	5
2016年 5月	3	2016年11月	20
2016年 6月	6	2016年12月	19
2016年 7月	15	2017年 1月	9
2016年 8月	8	2017年 2月	15
2016年 9月	14	2017年 3月	9

5. 業務関連

○演習室

演習室使用予定表 平成28年度・前学期第1クォータ

曜日	時限	8:30~10:00 1時限	10:20~11:50 2時限	12:40~14:10 3時限	14:30~16:00 4時限	16:20~17:50 5時限	18:00~19:30 6時限	19:40~21:10 7時限
月	第6演習室 (4階)<56席>			設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史				
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 中川 祐治						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		意思決定会計 (法・総政) 岡本 直之	情報リテラシー入門 I (農学部)	化学入門 (教育, 理, SSC, 農, 看護) 古賀 理和	統計学 (法・法政) 佐藤 智秋		
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 大塚 寛		野口 一人		夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 谷 弘幸		情報リテラシー入門 (農学部) 堤 三佳	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 震			
火	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門 I		心理学実験演習B (法文 2年) 十河 宏行		
	第4演習室 (4階)<56席>			工(機械・電電・情報)	情報リテラシー入門 I (教育)	工学実践英語 (工 機械工学) 有光 隆		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				平田 浩一	工学実践英語 (工 機械工学) 柴田 諭		
	第1演習室 (2階)<56席>			黒田 久泰	情報リテラシー入門 I (教育)	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			情報リテラシー入門 I (工(機械・電電・情報)) 野口 一人				
水	第6演習室 (4階)<56席>				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 震			
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>							
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
木	第6演習室 (4階)<56席>				情報リテラシー入門 I			
	第4演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門 I (医学部)				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	生活科学入門 (社, 法, 教, 農, 人文, 工) 古賀 理和	意思決定会計 (法・総政) 岡本 直之	岡本 好弘	木下 浩二	統計学 (法・法政) 佐藤智秋	生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和	
	第1演習室 (2階)<56席>			情報リテラシー入門 I (医学部) 宇戸 寿幸	情報リテラシー入門 I (法文学部) 一色 正晴	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>				情報リテラシー入門 I (法文学部) 河村 泰之			6/10
金	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門 I		フランス語1 (法文) 柳 光子		
	第4演習室 (4階)<56席>		情報リテラシー入門 I (社会共創学部)	工(能材・応化・環境)・SSC				情報リテラシー入門 I (法・夜間主) 二神 透
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		二宮 崇	阿萬 裕久				情報リテラシー入門 I (法・夜間主) 佐々木 隆志
	第1演習室 (2階)<56席>		情報リテラシー入門 I (社会共創学部) 遠藤 慶一	情報リテラシー入門 I (工学部) 小林 真也	高圧ガス保安教育講習会	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			情報リテラシー入門 I (能材・応化・環境)・SSC 甲斐 博	リーガルリサーチ (法・司法2年) 上山 友一			情報リテラシー入門 I (法・夜間主) 二神 透

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成28年度・前学期第2クォータ

曜日	時限 演習室	8:30~10:00	10:20~11:50	12:40~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10	
		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>			設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史					
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (理学部) 中川 祐治	情報リテラシー入門II (教育) 平田 浩一						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		8/1	情報リテラシー入門II (農学部)	化学入門 (教育, 理, SSC, 農, 看護) 古賀 理和	情報リテラシー入門II (社会共創学部) 二宮 崇	8/1		
	第1演習室 (2階)<56席>						夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>				野口 一人	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 震		8/2	
						機械工学実験 (工・機工 3年) 岩本 幸治	心理学実験演習B (法文 2年) 十河 宏行		
					情報リテラシー入門II (教育) 平田 浩一	工学実践英語 (工 機械工学) 有光 隆			
火	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門II 工(機械・電電・情報) 黒田 久泰					
	第4演習室 (4階)<56席>					工学実践英語 (工 機械工学) 柴田 諭			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	第1演習室 (2階)<56席>								
	メディア演習室 (2階北)<56席>					基礎朝鮮語II (法文 1年) 池 貞姫	8/2		
						製図基礎実習 (工学部2年) 朱 震			
水	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 震	8/3			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>								
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
木	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門II (医学部) 岡本 好弘	情報リテラシー入門II (法文学部) 木下 浩二				
	第4演習室 (4階)<56席>								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	生活科学入門 (社, 法, 教, 農, 人文, 工) 古賀 理和						生活科学入門 (法・夜間主) 古賀 理和	
	第1演習室 (2階)<56席>						夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
金	第6演習室 (4階)<56席>			情報リテラシー入門II (工(製材・応化・環境)・SSC) 阿萬 裕久		フランス語2 (法文) 柳 光子			
	第4演習室 (4階)<56席>		情報リテラシー入門II (社会共創学部)						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		二宮 崇				情報リテラシー入門II (法・夜間主) 佐々木 陸志		
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中, 冬季休業中, 年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>					リーガルリサーチ (法・司法2年) 上山 友一			

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。

* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成28年度・後学期第3クォータ

曜日	演習室	8:30~10:00		10:20~11:50	12:40~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10
		1 時限		2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	7 時限
月	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>			環境建設工学実験II (工・環建 3年) 全 邦釘					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					生活科学入門 (理, SSC, 農, 医1年) 古賀 理和			
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
火	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>						心理学実験演習B (法文・2年) 十河 宏行		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					プログラミング言語 (工・機械) 柴田 諭	政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生	政策情報論 (法・夜間主) 梅田 道生	
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
水	第6演習室 (4階)<56席>		システムデザイン (工学部 3年) 甲斐 博						
	第4演習室 (4階)<56席>		コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			CAD実習 (工学部 機械工学科 2年) 有光 隆					
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>		情報活用実践 (教育学部 1年) 河村 泰之			人文学情報処理演習A (法・人文学科) 和田 武			
木	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>	情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二				松山東スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業 井門 俊			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					松山東SGH事業 グローバル明教II 松浦 一雄			
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>								
金	第6演習室 (4階)<56席>								
	第4演習室 (4階)<56席>		コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛				フランス語3 (法文) 柳 光子		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			創造設計製作 (工 機械工学科) 堤 三佳		政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生			
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>		社会共創学部 学修ポートフォリオ入力作業	11/25					

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

日曜	演習室	13:30~15:00		15:10~16:40	16:50~18:20	
		1 時限		2 時限	3 時限	
土	第6演習室 (4階)<56席>	教員免許状更新講習				11/26 (8:30~17:50)
	第4演習室 (4階)<56席>					
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>				
	メディア演習室 (2階北)<56席>					

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成28年度・後学期第4クォーター

日曜	時間	演習室						
		8:30~10:00 1時間	10:20~11:50 2時間	12:40~14:10 3時間	14:30~16:00 4時間	16:20~17:50 5時間	18:00~19:30 6時間	19:40~21:10 7時間
月	第6演習室 (4階)<56席>			地球物理学実験 (理学部 地球科学科 2年) 出倉 春彦		SPIガイダンス	1/30	
	第4演習室 (4階)<56席>			環境建設工学実験II (工・環境 3年) 全 邦 釘				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		1/23	英語統一試験 GTEC CTE	生活科学入門 (SSC, 工, 農1年) 古賀 理和			
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	英語統一試験 GTEC CTE	1/23	英語統一試験 GTEC CTE	1/23			
	第6演習室 (4階)<56席>			情報基盤システム特論 (工・情報工学コースM1) 阿萬 裕久				
火	第4演習室 (4階)<56席>			1/24	英語統一試験 GTEC CTE	心理学実験演習B (法文・2年) 十河 宏行		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				プログラミング言語 (工・機械) 柴田 諭	政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生		政策情報論 (法・夜間主) 梅田 道生
	第1演習室 (2階)<56席>			1/24	1/24	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	英語統一試験 GTEC CTE	1/24	英語統一試験 GTEC CTE	英語統一試験 GTEC CTE			
	第6演習室 (4階)<56席>		システムデザイン (工学部 3年) 甲斐 博		えひめIT人材育成キャンパス			1/18, 1/25
	第4演習室 (4階)<56席>		コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛		基礎演習・専門演習 (法 2・3年) 佐藤 智秋	1/11		
水	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			CAD実習 (工学部 機械工学科 2年) 有光 陸		SPI能力検査受検会	1/25	
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>		情報活用実践 (教育学部 1年) 河村 泰之		人文情報処理演習A (法・人文学科) 和田 武			
	第6演習室 (4階)<56席>				地球温暖化と国際社会(SGH) 李 賢映		1/12, 1/26, 2/2	
	第4演習室 (4階)<56席>	情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二			松山東スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業 井門 俊			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	英語統一試験 GTEC CTE	1/26		松山東SGH事業 グローバル明教II 松浦 一雄			
木	第1演習室 (2階)<56席>	1/26	1/26			夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	英語統一試験 GTEC CTE	英語統一試験 GTEC CTE		英語統一試験 GTEC CTE	1/26		
	第6演習室 (4階)<56席>							
	第4演習室 (4階)<56席>			コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛		フランス語4 (法文) 柳 光子		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			創造設計製作 (工 機械工学科) 堤 三佳		政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生		
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
金	メディア演習室 (2階北)<56席>		英語統一試験 GTEC CTE	1/27				

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

日曜	時間	演習室		
		13:30~15:00 1時間	15:10~16:40 2時間	16:50~18:20 3時間
土	第6演習室 (4階)<55席>			
	第4演習室 (4階)<56席>			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			

5. 業務関連

(5) センターイベント

○インシデント発生時の対応手順説明会

日 時：平成 28 年 12 月 2 日（金）14：00～

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター1F メディアホール

対 象：セキュリティ担当教職員

○情報セキュリティセミナー

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター

日 時：平成 28 年 9 月 21 日（水）14：00～16：10

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター1F メディアホール

対 象：本学学生・教職員

○キャンパス IT 授業

主 催：愛媛大学

日 時：平成 28 年 9 月 14 日（水）13:00～16:00

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター

対 象：高校生

(6) 各種委員会

【センター会議】

平成 28 年度第 1 回総合情報メディアセンター会議議事要旨

- 1 平成 28 年 7 月 4 日（月）16:00～16:45
- 2 総合情報メディアセンター会議室
- 3 出席者：高橋センター長、梅田委員、廣垣委員、山本委員、木村委員、二宮委員、高橋講師（羽藤委員代理）、中川委員、野口委員、川原委員、仲道委員、石田委員
- 4 欠席者：観音委員、阿萬委員、佐々木委員

議事に入る前に、今年度最初の会議であるため、各委員の自己紹介があった。

（審議事項）

- 1 総合情報メディアセンター利用負担金について（事務課長、資料 1）
事務課長から資料 1 により説明があった。例年、各学部にも負担をお願いしているものであり、社会共創学部の設置により、今年度から社会共創学部にも負担を依頼する旨、報告があり原案どおり了承された。
- 2 平成 27 年度決算（案）及び平成 28 年度予算（案）について（事務課長、資料 2）
事務課長から資料 2 により説明があった。本年度の予算案は、厳しい旨の説明があり、原案どおり了承された。
- 3 その他

5. 業務関連

なし

(報告事項)

1 CSIRT(シーサート:情報セキュリティ対策チーム)について (センター長, 資料 3)

センター長から, 資料3により, 今年度にインシデントへの対応及び再発防止を目的としてCSIRTを設置することとした旨の報告があった。CSIRTは, センター長を総括責任者として, 総合情報メディアセンター情報基盤部門の教官・技術職員を構成員として発足する予定である。

2 国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議について (センター長, 資料 4)

センター長から, 資料4により, 平成28年6月29日に文部科学省において国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議があり, 平成28年度中に, 情報セキュリティ強化を図るため, 情報セキュリティ対策基本計画を策定しなければならないこととなった旨の報告があった。

3 その他

なし

【教員コア会議】

- ・平成28年5月31日(火) 平成28年度第1回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成29年1月12日(木) 平成28年度第2回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成29年3月02日(木) 平成28年度第3回総合情報メディアセンター教員コア会議

5. 業務関連

(7) センター規則

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

平成23年4月1日
規則第 24 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同利用の施設として、愛媛大学(以下「本学」という。)の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる教育研究部門を置く。

- (1) 情報基盤部門
- (2) 情報メディア教育部門
- (3) 学術情報システム部門

第2章 業務等

(業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 計算機システムに関すること。
- (2) ネットワークシステムに関すること。
- (3) 情報教育に関すること。
- (4) 学術研究支援に関すること。
- (5) キャンパス情報化に関すること。
- (6) eラーニングコンテンツの制作支援に関すること。
- (7) その他愛媛大学先端研究・学術推進機構長(以下「機構長」という。)の指示する業務

(組織)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター員
 - ア センターの専任教員
 - イ 本学の専任教員(アの者を除く。) 若干人
 - ウ その他必要な職員

2 センター長候補者は、本学の専任の教授又は理事のうちから愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議(以下「学術研究会議」という。)が推薦し、学長が選考する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセ

5. 業務関連

ンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

- 4 センターの専任教員は、学術研究会議が推薦し、学長が選考する。
- 5 センター員のイの者は、センター長が推薦し、機構長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。
- 6 センター員のイの者の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第6条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター員は、センターの業務を処理する。

(教育デザイン室)

第6条の2 センターに、e ラーニングコンテンツの研究・開発及び制作支援等を行うため、愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室（以下「教育デザイン室」という。）を置く。

- 2 教育デザイン室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第7条 センターに、第4条に規定する業務に関する企画立案等を行う部会を置く。

- 2 部会に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

第3章 センター会議

(センター会議)

第8条 センターに、第4条に掲げる業務の運営に関する重要事項を審議するため、総合情報メディアセンター会議（以下「センター会議」という。）を置く。

(組織)

第9条 センター会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター員 若干人
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 総合情報メディアセンター事務課長
- (5) その他特に必要と認めた本学の職員

- 2 前項第2号の委員は、センター長が指名する。

- 3 第1項第3号の委員は、当該教員の所属する学部の長の推薦に基づき、機構長が委嘱する。

- 4 第1項第5号の委員は、センター長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

- 5 第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第10条 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 議長は、センター会議を招集し、主宰する。

- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

5. 業務関連

第11条 センター会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

第4章 利用等

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

2 分室に関する規程は、別に定める。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部総合情報メディアセンター事務課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(その他)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 愛媛大学総合情報メディアセンター規則(平成16年規則第191号)は、廃止する。

3 愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会規程(平成16年規則第24号)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

案内図



愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

〒790-8577 松山市文京町3

3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan

TEL 089-927-8803・FAX 089-927-8805

<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>

2017.6発行